

令和5年度
北秋田市教育委員会
点検・評価報告書

令和6年10月
北秋田市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

点検及び評価の対象年度：令和5年度

＜構成内容＞

- 1 点検・評価の趣旨等・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
 - (1) 点検・評価の趣旨
 - (2) 点検・評価の対象
 - (3) 点検・評価の方法
 - (4) 学識経験者の知見の活用
 - (5) 報告書の作成経緯
 - (6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿
- 2 教育委員会の会議開催状況・・・・・・・・ P 3
- 3 教育委員会の会議審議状況・・・・・・・・ P 3
 - 令和5年度 教育委員会審議案件一覧
 - (1) 令和5年度 附議案件
 - (2) 令和5年度 承認案件
 - (3) 令和5年度 報告案件
 - (4) 令和5年度 その他案件
- 4 総合教育会議開催状況・・・・・・・・ P 6
 - 令和5年度 総合教育会議審議案件一覧
 - (1) 令和5年度 審議案件
- 5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】・・・・ P 7
- 6 点検評価の基本的な考え方について・・・・ P 8
- 7 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】・・・・ P 9
- 8 主要事務事業点検・評価票・・・・・・・・ P 10
 - 【点検・評価対象事務事業一覧】
 - 【個別点検・評価票】

1 点検・評価の趣旨等

(1) 点検・評価の趣旨

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、令和5年度の教育委員会事務の点検及び評価を行い、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

(2) 点検・評価の対象

本報告書の点検・評価は、令和5年度の事務・取組を対象として実施しています。

また、学校教育や社会教育に関することなど、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条で教育委員会の職務権限とされ、本市教育委員会が所管するすべての事務のうち、北秋田市教育大綱の構成に基づいて重点施策の実績について点検・評価を行うものとしています。

(3) 点検・評価の方法

北秋田市教育大綱（R3～R7）の基本的な方針・目標を達成するための市の取組（主要施策）について、令和5年度中に実施した事業から42事務事業を選定し、内部評価を実施しました。

(4) 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、客観性を確保するため、学識経験者2名を評価委員に委嘱し、個別に意見をいただきました。

◎点検・評価について意見を徴取した学識経験者

北秋田市教育委員会点検評価委員 佐藤 洋子 氏

北秋田市教育委員会点検評価委員 木下 隆 氏

(5) 報告書の作成経緯

報告書の作成は次のように行いました。

6月20日 教育委員会6月定例会で、北秋田市教育委員会点検評価委員選任

教育委員会6月定例会で、令和5年度点検・評価報告書（案）説明

7月25日 教育委員会7月定例会で、令和5年度点検・評価報告書（案）審議

10月2日 点検評価会議を開催し、点検評価委員から意見聴取

10月31日 教育委員会10月定例会で、令和5年度点検・評価について議決 → 公表

(6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿

(令和6年3月31日現在)

職 名	氏 名	委員任期
教 育 長	佐 藤 昭 洋	平成29年5月1日 ～令和8年4月30日
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 正 俊	平成20年5月14日 ～令和6年5月13日 (平成23年5月14日 ～令和6年5月13日)
委 員	佐 藤 英 樹	令和元年5月14日 ～令和9年5月13日
委 員	藤 本 基 子	平成30年5月14日 ～令和8年5月13日
委 員	蒔 苗 隆	平成30年10月10日 ～令和7年5月13日

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の会議開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回の「教育委員会定例会」と、状況に応じた「教育委員会臨時会」を開催しています。令和5年度は、合計で15回開催しました。

(1) 教育委員会定例会・・・12回

(2) 教育委員会臨時会・・・3回

No	開催日	案件数				所用時間	出席 委員数	備考
		議決	承認	報告	その他			
1	R5. 4. 11	2		1		34分	4	臨時会
2	R5. 4. 28	1	1	1	2	96分	4	
3	R5. 5. 25				2	50分	4	
4	R5. 6. 29	4	2		2	106分	4	
5	R5. 7. 20	2			2	101分	4	
6	R5. 8. 31	1	3		2	139分	4	
7	R5. 9. 28				2	61分	3	
8	R5. 10. 26	2		1	2	88分	4	
9	R5. 11. 22	3			2	136分	4	
10	R5. 12. 8	2				26分	4	臨時会
11	R5. 12. 21				2	68分	4	
12	R6. 1. 25			1	2	89分	4	
13	R6. 2. 22	12			2	206分	4	
14	R6. 3. 1	2				105分	4	臨時会
15	R6. 3. 26	6	1	1	2	134分	4	
	計	37	7	5	24	1439分	59	

※出席委員数に教育長は含みません。

3 教育委員会の会議審議状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第25条及び北秋田市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（平成17年教育委員会規則第6号）第2条の規定に基づき、令和5年度は合計で37件について審議しました。

<令和5年度 教育委員会審議案件一覧>

(1) 令和5年度 附議案件

議案番号	件 名	提出年月日
R5年27	北秋田市小中学校適正規模・配置再編プランの変更について	R5. 4. 11
28	北秋田市立学校条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R5. 4. 11
29	北秋田市公民館長の辞職について	R5. 4. 28
30	北秋田市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について	R5. 6. 29
31	学校事務センターの廃止等に伴う関係要綱等の整備に関する要綱等の制定について	R5. 6. 29
32	北秋田市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R5. 6. 29

33	北秋田市公民館長の任命について	R5. 6. 29
34	北秋田市教育委員会点検評価委員の委嘱について	R5. 7. 20
35	令和 4 年度北秋田市教育委員会点検・評価報告書について	R5. 7. 20
36	北秋田市図書館・公民館図書室資料除籍要綱の制定について	R5. 8. 31
37	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	R5. 10. 26
38	令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果分析の公表について	R5. 10. 26
39	北秋田市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例に係る意見聴取について	R5. 11. 22
40	北秋田市行政組織条例等の一部を改正する等の条例に係る意見聴取について	R5. 11. 22
41	令和 5 年度北秋田市一般会計補正予算（第 7 号）の北秋田市議会提出について	R5. 11. 22
42	北秋田市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定に係る意見について	R5. 12. 8
43	服務監督者としての対応について	R5. 12. 8
R6年1	北秋田市阿仁異人館条例及び北秋田市郷土文化保存伝承館条例の一部を改正する条例の制定に係る意見徴取について	R6. 2. 22
2	令和 5 年度北秋田市一般会計補正予算（第11号）の関係部分に係る意見徴取について	R6. 2. 22
3	令和 6 年度北秋田市一般会計予算の関係部分に係る意見徴取について	R6. 2. 22
4	北秋田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について	R6. 2. 22
5	北秋田市立学校その他教育機関の長に対する事務委任規程の一部を改正する訓令の制定について	R6. 2. 22
6	北秋田市教育委員会公印取扱規則の一部を改正する規則の制定について	R6. 2. 22
7	北秋田市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	R6. 2. 22
8	北秋田市浜辺の歌音楽館の管理及び運営に関する規則等を廃止する規則の制定について	R6. 2. 22
9	北秋田市ひまわり陶芸ハウス管理規則の制定について	R6. 2. 22
10	北秋田市郷土文化保存伝承館管理運営規則の制定について	R6. 2. 22
11	北秋田市郷土文化保存伝承館協議会規則の制定について	R6. 2. 22
12	北秋田市招致外国青年の任用に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R6. 2. 22
13	県費負担教職員の内申について	R6. 3. 1
14	北秋田市阿仁異人館条例及び北秋田市郷土文化保存伝承館条例の一部を改正する条例の制定に係る意見について	R6. 3. 1

15	北秋田市教育委員会事務点検及び評価実施要綱の一部を改正する訓令の制定について	R6. 3. 26
16	北秋田市立学校遠距離通学児童生徒スクールバス及びスクールタクシー利用要綱の一部改正について	R6. 3. 26
17	北秋田市立学校部活動地域連携・移行推進計画の策定について	R6. 3. 26
18	北秋田市公民館長の任命について	R6. 3. 26
19	北秋田市公民館主事の任命について	R6. 3. 26
20	北秋田市伊勢堂岱縄文館館長の任命について	R6. 3. 26

※議案番号は、暦年による一連番号を記載。

(2) 令和5年度 承認案件

承認番号	件 名	提出年月日
R5年2	専決処分の承認を求めることについて（専決第4号 令和4年度北秋田市一般会計補正予算（第11号）の北秋田市議会提出について）	R5. 4. 28
3	専決処分の承認を求めることについて（専決第6号 令和5年度北秋田市一般会計補正予算（第3号）の北秋田市議会提出について）	R5. 6. 29
4	専決処分の承認を求めることについて（専決第7号 義務教育学校阿仁学園統合改修工事（建築工事）の北秋田市議会提出について）	R5. 6. 29
5	専決処分の承認を求めることについて（専決第8号 北秋田市浜辺の歌音楽館条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について）	R5. 8. 31
6	専決処分の承認を求めることについて（専決第9号 北秋田市営スキー場条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について）	R5. 8. 31
7	専決処分の承認を求めることについて（専決第10号 令和5年度北秋田市一般会計補正予算（第5号）の北秋田市議会提出について）	R5. 8. 31
R6年1	専決処理の報告について（専決第3号 北秋田市教育委員会事務局職員の任免について）	R6. 3. 26

※承認番号は、暦年による一連番号を記載。

(3) 令和5年度 報告案件

番号	件 名	提出年月日
R5年2	専決処理の報告について（専決第3号 北秋田市公民館主事の任命について）	R5. 4. 11
3	専決処理の報告について（専決第5号 学校事務共同実施グループリーダー等の任命について）	R5. 4. 28
4	専決処理の報告について（専決第11号 公文書の開示について）	R5. 10. 26
R6年1	専決処理の報告について（専決第1号 公文書の開示について）	R6. 1. 25
2	専決処理の報告について（専決第2号 北秋田市教育委員会事務局課長の任免について）	R6. 3. 26

(4) 令和5年度 その他案件

番号	件 名	提出年月日
1	教育長報告	R5. 4. 28
2	各課長所管報告	R5. 4. 28
3	教育長報告	R5. 5. 25
4	各課長所管報告	R5. 5. 25
5	教育長報告	R5. 6. 29
6	各課長所管報告	R5. 6. 29
7	教育長報告	R5. 7. 20
8	各課長所管報告	R5. 7. 20
9	教育長報告	R5. 8. 31
10	各課長所管報告	R5. 8. 31
11	教育長報告	R5. 9. 28
12	各課長所管報告	R5. 9. 28
13	教育長報告	R5. 10. 26
14	各課長所管報告	R5. 10. 26
15	教育長報告	R5. 11. 22
16	各課長所管報告	R5. 11. 22
17	教育長報告	R5. 12. 21
18	各課長所管報告	R5. 12. 21
19	教育長報告	R6. 1. 25
20	各課長所管報告	R6. 1. 25
21	教育長報告	R6. 2. 22
22	各課長所管報告	R6. 2. 22
23	教育長報告	R6. 3. 26
24	各課長所管報告	R6. 3. 26

4 総合教育会議開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）の施行により、平成27年度から「総合教育会議」を設置しています。

総合教育会議では、市長と教育委員会が協議を行い、教育に関する総合的な施策の大綱を策定する他、教育の条件整備など重点的に構すべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置等について協議・調整を行います。令和5年度は2回開催しました。

<令和5年度 総合教育会議審議案件一覧>

(1) 令和5年度 審議案件

番号	件 名	年月日
1	令和5年度主な教育施策について	R5. 5. 25
2	令和5年度主な教育施策の実施状況（上半期）について	R5. 10. 26

5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

令和5年度における教育委員会の当初予算は24億595万8千円でありましたが、6695万7千円の増額補正等があり、予算合計が24億7291万5千円となっています。これは、前年度予算と比較して5億7714万4千円増加、一般会計に占める教育費の割合は約8.8%で、前年度に比べ約2.3%増加しています。

会議については、教育委員会を15回、総合教育会議を2回開催しました。総合教育会議では、市長と教育委員が一堂に会し、北秋田市における「学校教育」「社会教育」「スポーツ」という教育全般にわたり、教育理念や方針、施策や事業等について有意義な協議、意見交換が行われました。

令和5年度における教育委員会の主要施策についての個別点検・評価について、次頁以降に示している42事業を対象として、「アウトカム型」「アウトプット型」「ロードマップ型」「例年実施型」「緊急対策型」の5つの類型で52の評価指標を設定しました。

目標値を設定した「アウトカム型」「アウトプット型」は29指標の内、小・中学校校務支援システム導入事業や縄文まつり開催事業、文化会館運営事業、民俗芸能大会事業など9指標で目標値を達成したほか、6指標で一部達成した一方、14指標が達成できませんでした。

事業進捗を年次で示した「ロードマップ型」は4指標で、計画どおり進捗しています。

目標値の設定が馴染まない「例年実施型」が18指標で、「緊急対策型」は新型コロナウイルス感染対策事業で、緊急事案に対して迅速な対応をしました。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策を引き続き講じながらも、学校行事やイベント等を実施し、確実にコロナ禍以前の賑わいを取り戻しつつあります。縄文まつりは開催以降初めて参加者が1,000人を超え、文化会館利用者や民俗芸能大会の交流人数も過去最高となりました。また、指標を達成できなかった事業についても、前年の実績を上回る事業が多くみられました。

点検評価を終え、学識経験者からは次の御意見をいただきました。

「一つ一つの事業が着実に実践されている印象をもちました。毎年継続されている事業ですが、その成果と課題を明確にして進められていました。課題改善のために新たな企画を立ち上げ、よい変化がもたらされた場合、それは市の活性化につながります。実際、これを実感した事業がいくつもありました。事業それぞれに違いはありますが、今後も新しい取組を導入し、積極的に事業を推進されますよう期待いたします。」

「各事業の目的に基づき、前年度までの評価等を生かし、様々な工夫や改善が図られ、的確な企画や運営がなされている。また、5つの類型による評価指標及び実績から、課題を明確にして今後の方向性を導き出している。一つ一つの事業が着実に実践され、市民に還元されている印象をもった。少ない職員で多様な業務に携わっていると思うが、チーム力を機能させて本市教育大綱の具現化に努めていただきたい。」

いただいた御意見を踏まえ、より効果的な教育行政の推進に努めて参ります。

令和6年10月

北秋田市教育委員会

6 点検評価の基本的な考え方について

本市では、令和3年5月に市の教育行政の根本となる方針を定める「北秋田市教育大綱」を策定し、令和3年度から令和7年度までの5年間の施策の方針（目標）を示しました。

教育大綱では、基本的な方針を「心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実」、「ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり」、「スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田」の3つに分類するとともに、各方針の目標を以下のとおり示しております。

令和5年度分の施策の実績については、教育大綱の基本的な方針に基づき評価することとし、この報告書では、3つの基本的な構成ごとに、各施策の実績について点検・評価を行うものとします。

〔北秋田市教育大綱の基本的な方針と目標〕

心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（生涯学習）
① 次代を切り拓くための資質・能力の育成	① 協働による持続可能な地域づくり
② 豊かな心と健やかな体の育成	② 共に学びあえる生涯学習の推進
③ ふるさとを愛し、ふるさとを支えようとする子どもの育成	③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携
ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（文化）	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田
④ 心を豊かにする芸術文化の振興	① スポーツ環境の充実
⑤ 文化財保存・継承の推進	② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化
	③ 競技スポーツの向上

計画の進行管理にあたっては、評価指標を設定することで効果的な促進を図ることとしており、各事業の内容や期待される効果などに応じて、次の5つの類型の評価指標のいずれかを設定しました。

なお、評価指標については、各事業の達成度を評価する際の参考指標という位置付けとし、評価については各事業の進捗状況などを踏まえ総合的に行いました。

〔評価指標についての基本的な考え方〕

1 アウトカム型 （目標値設定あり）	事業を通じて直接的な効果や理解度などが測定できるもの 【例】 学力検査結果、利用者アンケート結果
2 アウトプット型 （目標値設定あり）	事業の活動や事業結果が定量的に示せるもの 【例】 入館者数、登録数
3 ロードマップ型 （目標値設定なし）	計画期間内の事業計画が決まっており、事業の進捗が年次で示せるもの 【例】 施設整備事業、タブレット端末整備事業
4 例年実施型 （目標値設定なし）	毎年同じ内容で着実に実施しているもの 【例】 就学援助事業、〇〇活動の支援事業
5 緊急対策型 （目標値設定なし）	緊急的に実施したもの 【例】 感染症緊急対策事業、災害対策事業

7 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

◎凡例

本市教育委員会の事務を、令和3年5月に策定した「北秋田市教育大綱」に基づき、4つの基本的な方針―目標―事業の体系とし、目標及び事業の単位において点検・評価を実施しました。

また、事業の単位において学識経験者から聴取した意見を掲載しました。

◎評価指標の表記について

計画の進行管理にあたっては、評価指標を設定することで効果的な促進を図り、各事業の内容や期待される効果などに応じて、次の5つの類型の評価指標のいずれかを設定することとします。

なお、評価指標については、各事業の達成度を評価する際の参考指標という位置付けとし、評価については各事業の進捗状況などを踏まえ総合的に行うこととします。

①アウトカム型・・・事業を通じて直接的な効果や理解度などが測定できるもの（目標値設定あり）

◆評価指標 **アウトカム** ◆実績

●●と答えた児童生徒の割合
●%

H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
●%	●%	●%			

②アウトプット型・・・事業の活動や事業結果が定量的に示せるもの（目標値設定あり）

◆評価指標 **アウトプット** ◆実績

●●施設利用者数
●名

H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
●名	●名	●名	●名	●名	●名

③ロードマップ型・・・計画期間内の事業計画が決まっており、事業の進捗が年次で示せるもの

◆評価指標及び実績 **ロードマップ**

H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
●●事業準備		●●事業実施			
●●調査完了					

←事業計画に対する
実績(下段)

④例年実施型・・・毎年同じ内容で着実に実施しているもの（目標値設定なし）

◆評価指標及び実績 **例年実施**

H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
●●件	●●件	●●件	●●件	●●件	●●件

←事業計画に対する実績

⑤緊急対策型・・・緊急的に実施したもの（目標値設定なし）

◆評価指標及び実績 **緊急対策**

H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
		●●件	●●件	●●件	●●件

←事業計画に対する実績

8 主要事務事業点検・評価票

【点検・評価対象事務事業一覧】

基本的な方針	目標
心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実	①次代を切り拓くための資質・能力の育成 ②豊かな心と健やかな体の育成 ③ふるさとを愛し、ふるさとを支えようとする子どもの育成

No	事務事業名	【総務課】
1	あきたリフレッシュ学園・教育留学事業	例年実施/アウトプット
2	義務教育学校阿仁学園統合改修事業	ロードマップ
3	学校給食事業	アウトプット

No	事務事業名	【学校教育課】
4	遠距離通学事業	例年実施
5	教育センター事業	アウトカム
6	外国青年招致事業	アウトカム
7	総合学習補助事業	例年実施
8	小・中学校パソコン導入事業（GIGAスクール構想）	ロードマップ
9	学校生活サポート員配置事業	例年実施
10	不登校児童生徒対策事業	例年実施
11	小・中学校校務支援システム導入事業	アウトカム
12	新型コロナウイルス感染症対策事業	緊急対策

基本的な方針	目標
ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（生涯学習）	①協働による持続可能な地域づくり ②共に学びあえる生涯学習の推進 ③子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携

No	事務事業名	【生涯学習課】
13	新成人事業	例年実施
14	日本語教室開催事業	例年実施
15	青少年育成事業	例年実施
16	花いっぱい運動推進事業	例年実施
17	地域学校協働本部事業	アウトプット/アウトカム
18	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業	アウトプット
19	高齢者教育事業	アウトプット/アウトカム
20	公民館講座開設事業	アウトプット/アウトカム
21	公民館管理事業	例年実施
22	図書館事業	アウトプット/例年実施
23	放課後子ども教室推進事業	アウトプット
24	家庭教育支援推進事業	例年実施

基本的な方針	目標
ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（文化）	④心を豊かにする芸術文化の振興 ⑤文化財保存・継承の推進

No	事務事業名	【生涯学習課】
25	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業	ロードマップ
26	縄文まつり開催事業	アウトプット/アウトカム
27	伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業	アウトプット/アウトカム
28	文化会館運営事業	アウトプット
29	文化会館自主事業	アウトプット
30	みちのく子供風土記館管理事業	アウトプット/例年実施
31	浜辺の歌音楽館運営事業	アウトプット/例年実施
32	文化祭開催事業	アウトプット
33	文化財保護事業	例年実施
34	民俗芸能大会事業	アウトプット/例年実施
35	方言保存継承事業	ロードマップ

基本的な方針	目標
スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田	①スポーツ環境の充実 ②生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 ③競技スポーツの向上

No	事務事業名	【スポーツ振興課】
36	北秋田市民プール管理運営事業	例年実施
37	薬師山スキー場管理運営事業	例年実施
38	北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業	アウトプット
39	100キロチャレンジマラソン大会補助事業	アウトプット
40	北秋田市スキー大会等補助事業	アウトプット
41	北秋田市スポーツ大会開催補助事業	アウトプット
42	北秋田市スポーツ大会出場費補助事業	アウトプット

1	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実					総務課	
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成						
事業名	あきたリフレッシュ学園・教育留学事業					決算額 10,474 千円		
◆事業の目的 あきたリフレッシュ学園 学校や日常生活に悩み、疲れた小・中学生に大自然の中で心と体のリフレッシュを図る場と機会を提供する。		◆事業概要 あきたリフレッシュ学園 県派遣の社会教育主事と教員OBの指導員が、個々に応じた学習と自然体験をコーディネートし、社会性や協調性を育む。 教育留学事業 県委託事業 県の委託事業であり、留学生が滞在期間や留学内容を自由に選択できる「オーダーメイド」型の留学である。市内の小中学校に通う「学習交流型」とあきたリフレッシュ学園に通う「生活改善型」があり、在籍校の出席扱いとできることから体験、長期滞在、定住とステップアップすることができる。 また、上記の教育留学を推進する事業として「短期チャレンジ留学」を夏と冬の年2回、県外の児童生徒を対象に開催している。（令和3年度以降は市単独事業）						
◆評価指標及び実績 あきたリフレッシュ学園事業		例年実施						
		実績	R1	R2	R3	R4		R5
		実人数	11人	13人	17人	15人		23人
		実人数(市内)	8人	7人	7人	7人	11人	
		延べ人数	676人	270人	447人	413人	415人	
教育留学事業		アウトプット						
		実績	R1	R2	R3	R4	R5	
		実人数	11人	—	—	2人	2人	
		延べ人数	818人	—	—	47人	79人	
評価指標		参考	短期留学の参加者数					
長期教育留学を実施した過去の留学生の人数		夏期	19人	—	—	—	15人	
		冬期	24人	—	16人	14人	14人	
11人(過去5年間の平均)以上		計	43人	—	16人	14人	29人	
◆令和5年度の実施状況								
○あきたリフレッシュ学園 体験活動を通して学校復帰を目指す不登校対策のあきたリフレッシュ学園事業では、年間約90種類の体験、調理実習や収穫など細かく分類すると約150種類の体験活動を行い、経験の獲得により自信、自己肯定感を高めることができた。また、個に応じた学習活動を行い、自分のペースで学習することができるよう学習指導から自分自身の得意科目を発見でき、また、わかる・できる喜びを味わうことで自信を深めている。これらの活動を通して自信、元氣、心のエネルギーの回復ができ、学園に通うことで生活リズムが整う子もみられた。								
○教育留学 教育留学事業については令和4年度は冬休みを利用して行う短期留学のみの実施であったが令和5年度は夏休み、冬休みを利用した短期留学を実施することが出来た。また、年間を通して受け入れる長期留学についても不登校傾向にある県外の児童生徒を対象に行う「生活改善型」については、中学生1人、小学生1人の留学生を受け入れたことにより、関係人口の拡大につなげることができた。								
◆自己評価 あきたリフレッシュ学園事業は、例年実施型として評価指標を設定していない。不登校の子供が社会との接点があれば、将来「ひきこもり」に陥る可能性がある。リフレッシュ学園は社会との大事な接点となっていることから事業の意義は大きい。 教育留学事業は、市内の学校に通う「学習交流型」の受入れを新型コロナウイルス感染症の影響により中止しており、また学童研修センター内で実施する「生活改善型」については、募集をしたものの2人受け入れだったため評価指標を達成できなかった。短期留学については、夏期15人、冬期14人の参加があり、秋田の教育環境のよさを体験してもらい、県内への移住・定住につながる事業となった。								
◆今後の方向性 あきたリフレッシュ学園事業は、体験活動を通じて自尊感情や自己有用感を高めるための支援を続ける。 教育留学事業は、県の委託事業を継続するために、教育留学事業の意義を周知させ、秋田の魅力発信、関係人口の増加につなげる事業を展開する。								
◆評価委員の意見 それぞれの事業の特徴を生かし、個々の児童生徒の実態に即した支援・指導が成長を促している。教育留学事業は秋田のよさや魅力を発信するよい機会となっている。 リフレッシュ学園では、利用者の実態に応じた多様なプログラムを実施したり、家庭や関係機関と連携したりして自尊感情や自己有用感を育てており高く評価できる。教育留学事業では、県と連携した更なる短期・長期事業の情報発信に努め、関係人口の増加につなげることを期待する。								

2	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実			総務課
		目標	その他、特別な事業		
事業名	義務教育学校阿仁学園統合改修事業				決算額 638,804 千円
◆事業の目的 北秋田市立学校 適正規模・配置再編プランに沿った校舎等の整備充実に図り、施設の耐久性を確保する。			◆事業概要 旧阿仁合小学校校舎等を義務教育学校校舎等として整備する。		
◆評価指標及び実績		ロードマップ			
		R4	R5	R6	
		統合改修事業			
		調査・設計	施工	外構	
◆令和5年度の実施状況 校舎等の改修工事及び外構工事等の実施設計を行った。					
事業の概要					事業費
業務の内容 ・校舎改修工事 584,232千円 ・プール改修工事 10,111千円 ・遊具設置等外構工事(4工種) 12,781千円 ・改修工事工事監理 8,239千円 ・〃 設計管理 1,595千円 ・外構工事実施設計等委託 9,568千円 ・校内LAN整備委託等 6,881千円 ・学園看板等改修業務委託 1,862千円 ・備品購入費 3,515千円 ・通信料 20千円					638,804 千円
◆自己評価 令和6年度の統合校舎開校に合わせ工事を完了することができた。					
◆今後の方向性 令和6年度のグラウンド排水改良工事、駐車場整備工事、収納庫改築工事の完了をもって本事業は終了する。					
◆評価委員の意見 改修工事等が計画的に行われている。残りの工事も円滑に行われ、整備された環境の下で、教育活動が展開されるよう期待する。 木と採光の調和が、校舎内に温もりと広がりを感じ出し、児童生徒が伸び伸び学校生活を送れる空間を創出している。既存の校舎を工夫し、児童生徒数の動線にも考慮した校舎である。					

3	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実					総務課
		目標 ② 豊かな心と健やかな体の育成					
事業名	学校給食事業					決算額 328,811 千円	
◆事業の目的 学校給食の提供			◆事業概要 市内小学校7校、中学校3校、義務教育学校1校(前期・後期)への給食提供と比内支援学校たかのす校への給食提供を受託している。				
◆評価指標及び実績							
評価指標 給食食材使用量の地場産率 41品目 秋田県産 80% 41品目 北秋田市産 25% 41品目 秋田県平均比 +3%	アウトプット			※食数は1日あたりの食数			
	実績	R1	R2	R3	R4	R5	
	総食数	2,132食	2,048食	1,969食	1,885食	1,768食	
	鷹巣北部	918食	916食	879食	860食	822食	
	鷹巣南部	414食	350食	354食	312食	303食	
	もりよし	800食	782食	736食	713食	643食	
	秋田県産	80.0%	81.1%	81.6%	81.6%	78.8%	
	北秋田市産	22.6%	24.8%	23.1%	21.7%	36.0%	
	県平均比	+1.6%	+11.6%	+13.0%	+6.2%		
	○鷹巣北部学校給食センター 対象:鷹巣小・綴子小・鷹巣中 ○鷹巣南部学校給食センター 対象:鷹巣東小・清鷹小・比内支援学校たかのす校 ○もりよし学校給食センター 対象:合川小・米内沢小・前田小・合川中・森吉中・阿仁学園(前期・後期)			※R5県平均は公表 前のため不明			
◆令和5年度の実施状況							
○学校給食センターの厨房設備更新 (鷹巣北部) プレハブ冷蔵庫 768,900円、トラックイン式消毒保管機 7,315,000円 (鷹巣南部) 真空冷却機 5,280,000円、プレハブ冷凍庫 1,650,000円							
○学校給食支援事業 全国的に物価の高騰が続いている中、多くの食材の価格が上昇している状況にあり、給食費の値上げを行ったが、R5年度に限り、この値上げ分について市が助成し、保護者の経済的な負担軽減を図った。事業費は、11,994(千円)							
○地場産食材の活用 地元農家やJA秋田たかのすからの旬な野菜を使用し、地場産物メニューを定期的に提供した。 また、北秋田市産のブランド牛肉及び豚肉を使用したサイコロステーキ、牛丼、豚丼などワンランク上の給食を提供するとともに、給食日よりや市ホームページで給食の紹介を行った。 この他、食育の一環として、地域の特色・特産品を学ぶことを目的とした「K.KうめえBEAR給食(統一献立事業)」を上小阿仁村と共同して実施した。							
○食物アレルギー対策 児童生徒(新入学児童含む)の保護者と、医師の指示書を基に面談をし、代替・除去または、家庭からの持参対応を確認した。							
◆自己評価 給食メニューに地場産食材の使用に努めたことで、地場産率(北秋田市産)の目標を達成することができた。 給食食材使用量の地場産率について、41品目のうち秋田県産は評価指標80%に対して78.8%であり達成率98.5%と下回った。この減少の主な要因は、昨年の猛暑及び豪雨により県内産の野菜出荷量が減少したことと分析している。また、北秋田市産は評価指標25%に対して36%と達成率144.0%に向上したことは評価に値する。これは、令和4年度までは牛乳の産地を大館市としていたが、北秋田市から東北森永乳業へ生乳を納入していることが分かったことから、東北森永乳業への納入割合により按分した牛乳量を計上したことによる。							
◆今後の方向性 安心・安全な学校給食提供のため、日々の衛生管理を徹底する。 地元のJAをはじめとして、農業法人や個別農家への聞き取りを行い、納入に係る課題を整理することで、地元食材の利用拡大につなげる。また、地元農家等と連携を図り、旬な地元食材を利用できる給食献立を検討する。 鷹巣北部学校給食センターは、平成10年3月竣工から26年が経過し老朽化が進んでおり、施設の更新計画を検討する必要があるが、学校統合計画との整合を図り、鷹巣南部学校給食センターとの集約化を検討しなければならない。							
◆評価委員の意見 給食食材使用量の地場産率が高く評価できる。今後も安心・安全で旬な食材を利用した給食の提供に努められたい。施設の老朽化は給食の事故につながる可能性があるので、丁寧な施設点検をされたい。 旬な地元食材を利用した給食メニューは、食材提供者の育成や児童生徒の食育につながっており、地場産食材活用の取組は高く評価できる。							

4	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	遠距離通学事業					決算額 118,963 千円
◆事業の目的 スクールバス等の運行により、遠距離児童生徒の通学の安全と保護者の負担軽減を図り、平等な就学の機会を確保する。また、公共交通機関の利用可能な児童生徒には、定期券を配付することで経済的な軽減を図ることを目的とする。			◆事業概要 通学距離が小学生で片道4km中学生で片道6km以上となる児童生徒を対象とし、スクールバスやスクールタクシーを運行し通学を支援。また公共交通機関の利用が可能な児童生徒には定期券を配付。			
◆評価指標及び実績		例年実施				
スクールバス運行事業						
実績		R1	R2	R3	R4	R5
小学校 児童数		1,115人	1,075人	1,034人	992人	953人
中学校 生徒数		624人	602人	567人	572人	558人
対象小学生		202人	200人	238人	224人	205人
対象中学生		142人	171人	149人	143人	156人
対象小学生%		18.1%	18.6%	23.0%	22.6%	21.5%
対象中学生%		22.8%	28.4%	26.3%	25.0%	28.0%
遠距離通学費補助事業						
実績		R1	R2	R3	R4	R5
鷹巣南小学校学区		2人	4人	—	—	—
前田小学校学区		4人	3人	2人	2人	1人
◆令和5年度の実施状況 スクールバス運行事業においては、市所有スクールバス12路線、借上スクールバス3路線、スクールタクシー4路線を運行し、対象児童生徒361名の安全な通学に努めた。道路交通法の改正に伴うアルコールチェックの義務化により、令和4年度から市所有のスクールバスの運行及び車両管理を民間事業者に委託している。また、遠距離通学費補助については、前田小学校学区にある根森田線を利用可能な対象児童へバス定期券を配付した。						
◆自己評価 スクールバス等の事故については、相手方の過失による追突事故が2件発生した。幸いにも乗車中の児童生徒に怪我はなく、また当方に過失は無く被害者側ではあったものの、今後も運行における安全対策を徹底し、安全安心な運行に努めていく。						
◆今後の方向性 安全安心な運行を図るため、必要な車両の台数を確保していく。また、民間事業者が有する運行管理や車両管理に関する知見・ノウハウによる安全管理体制を強化するとともに、安全・安心な運行の徹底に努めるよう事業者に指示していく。 一方で、バス運転手の高齢化に伴う人材の確保が課題である。						
◆評価委員の意見 全児童生徒の四分の一近くが利用するスクールバスの運行は、利用児童生徒の生命安全に関わる重要な事業である。委託先の業者への指示・連携の強化を図り、さらなる安全対策の徹底に努められたい。 民間事業者への安全・安心な運行の徹底に十分努めている。今後も徹底した安全対策を講じられたい。						

5	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実					学校教育課	
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成						
事業名	教育センター事業					決算額 4,309 千円		
◆事業の目的 小・中学校の教職員研修を計画・実践し、北秋田市学校教育ビジョンに掲げる「主体的に学び、新しい時代を創造する子ども」の育成に努めることを目的とする。						◆事業概要 教育センターの組織を事業調査部、教職研修部、授業・教科部に分け、その中に各部会を設置し、教職員の研修に取り組む。また、所員発表会の開催や「北秋田の教育」の発行により、教職員の授業力の向上を図る。		
◆評価指標及び実績								
評価指標 授業研究会に関する教職員アンケート(4段階評価)において、「十分満足」と「概ね満足」の割合の合計が90%以上		アウトカム						
		実績	R1	R2	R3	R4	R5	
小学校		98.3%	97.0%	96.2%	97.1%	100.0%		
中学校		100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
平均		99.2%	98.0%	98.1%	98.0%	100.0%		
市平均(県平均)								
県学習状況調査(児童生徒質問紙調査)における質問項目「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」について、「あてはまる」の割合が県平均を上回る。		小4	+5.7%	-3.2%	-11.8%	+2.0%	-4.1%	54.0(58.1)
		小5	-2.8%	+6.9%	-5.1%	-1.7%	+8.4%	60.1(51.7)
		小6	+9.5%	-3.6%	+7.1%	-5.3%	-3.1%	44.9(48.0)
		児童平均	+4.1%	±0%	-3.2%	-1.7%	±0%	52.5(52.5)
		中1	+0.3%	+6.0%	-12.7%	+5.8%	-8.9%	32.6(41.5)
		中2	+3.5%	+3.4%	+6.1%	-8.2%	+5.3%	46.3(41.0)
		生徒平均	+1.9%	+4.7%	-3.3%	-1.2%	-1.7%	39.5(41.2)
◆令和5年度の実施状況 教職員の授業力向上を図るために授業研究会を実施し、8月の指導案検討会では、自校の取組や実践例の情報交換を行い、指導法の共有を図った。9月の研究授業は、14授業を行った。新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業提示と熱心な協議が行われた。 郷土学習フィールドワークは24名が参加し、伊勢堂岱遺跡を始めとして鷹巣、森吉、合川、阿仁の4地区で研修を行った。野外観察会は15名が参加し、ガイドによる自然に関する解説を受けながら桃洞の滝を訪れた。実技研修会には34名が参加し、歌唱、図画、外国語、プログラミングの指導法を学んだ。ICT研修会には24名が参加し、デジタル教科書や学習支援ソフトの効果的な活用について研修した。所員発表会では、代表校の研究発表の他に、児童の発表も行った。北秋田市出身のおもちゃクリエイター高橋晋平さんの講演は、多くの教員に教育活動のヒントを与えるものであった。								
◆自己評価 授業研究会については、教職員アンケート「授業研究会における協議の視点についての話し合い(ワークショップ等)」において「十分満足」と「概ね満足」の割合が100%となり、有意義な研修の場になっている。 県学習状況調査における「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」割合について、県平均を下回っている学年もあるが「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の肯定的回答は全ての学年で8割を超えている。学校で行っている様々な取組や個人で参加する全市一斉クリーンアップなどの活動を通して、さらに意欲を持てるよう価値付けをしていく。								
◆今後の方向性 ・各校での教職員の研修を支援できるよう、教育センターの各部会の研修内容を更に充実させる。また、学校数や児童生徒数の減少や教員の多忙化の解消に向けて、研修内容や実施方法等を工夫・改善していく。 ・「きらり☆きたあきた」の活用を推進するとともに、地域に根ざしたキャリア教育を推進する。地域でのボランティア活動や職場体験(教育委員会主催)、ふるさとサミット(教育委員会主催)などの機会を捉え、ふるさとを支えようとする自覚を育成する。								
◆評価委員の意見 授業研究会は教職員にとって有意義な研修の場となっており、評価できる。研修内容や実施方法等の工夫・改善をさらに図り、教職員にとってより重要性の高い研修となるよう努められたい。 本市学校教育ビジョンの具現化に向けて、教職員研修が体系的かつ計画的に実施されている。教職員の年齢構成や働き方改革に応じた、研修内容や実施方法等の工夫・改善に努められたい。								

6	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実					学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成					
事業名	外国青年招致事業					決算額 27,492 千円	
◆事業の目的 小学校外国語活動の全ての授業にALTを配置することにより、学級担任が安心して授業を計画し、実践できるようにする。また、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図り、異なった文化に対する理解を深めることを目的とする。			◆事業概要 小・中学校の外国語・外国語活動の授業の充実を図るため、ALT及びALTコーディネーターを配置する。 ALT 6名、ALTコーディネーター 1名				
◆評価指標及び実績		アウトカム					
評価指標			R1	R2	R3	R4	R5
県学習状況調査平均通過率で県平均+3%以上		中1	-3.6%	+1.5%	-3.2%	-4.6%	+0.4%
		中2	-3.1%	-2.1%	-0.3%	+0.8%	+2.5%
県学習状況調査(児童生徒質問紙調査)における質問事項「外国語活動(英語)の勉強が好きだ」が県平均+3%以上		小4		-7.0%	-3.4%	+6.5%	+1.6%
		小5	-4.2%	+1.6%	-5.7%	-1.7%	+3.1%
		小6	+4.9%	-6.8%	-1.2%	-3.3%	-1.7%
		中1	-3.5%	+6.7%	-13.8%	-10.6%	+7.3%
		中2	-4.2%	-3.9%	-6.3%	-5.9%	-0.1%
英検IBA3級以上合格レベルの割合が県平均を上回る		中3 県	32.5%	48.3%	51.8%	38.6%	44.4%
		中3 市	31.0%	44.8%	44.6%	36.3%	46.2%
		比較	-1.5%	-3.5%	-7.2%	-2.3%	+1.8%
◆令和5年度の実施状況 外国語活動・外国語指導の充実を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指すため、外国語指導助手(ALT)として、6名を招聘し、小学校7校、中学校3校、義務教育学校1校に派遣した。 ALTの人数や学級数、また原則的に中学校区等の単位で同一のALTを担当させ、児童生徒の視点とALTの児童生徒理解の視点から、小・中等の連携を図った。 ALTコーディネーター派遣事業を実施し、ALTの資質向上に努めた。							
◆自己評価 県学習状況調査では、平均通過率では評価指標は達成できなかったが、中1、中2ともに県平均を上回った。児童生徒質問紙調査では、小5と中1で評価指標が達成された。英検IBAで3級以上合格レベルにあると判断された割合は県平均を上回った。今後も学年の実態に合わせた指導とともに、個に応じた指導の充実を図っていく。							
◆今後の方向性 コーディネーター訪問を定期的に行いALTの資質向上を図りながら、併せて、県等が開催するブロック会議や指導力向上研修等への参加により、昨年度よりすべてが上回った。今後もALTの指導力向上を目指す。							
◆評価委員の意見 県学習状況調査の通過率、英検合格レベルの割合が前年度を上回り、評価できる。担当教員と連携し、外国語・外国語活動の学力向上を目指してさらに研修を深められたい。 ALTコーディネーターが核となり、各種事業を活用しながらALTの資質向上に努めている。その成果が数値にも表れており高く評価できる。							

7	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ③ ふるさとを愛し、ふるさとを支えようとする子どもの育成				
事業名	総合学習補助事業					決算額 836 千円
◆事業の目的 地域の暮らしや伝統・文化を学び、ふるさとのよさの発見、愛着心の醸成、ふるさとに生きる意欲の喚起を行い、ふるさとを支えようとする子どもを育成することを目的とする。			◆事業概要 各校で実施する「ふるさと教育」へ予算的支援をすることで創意工夫を促す。			
◆評価指標及び実績		例年実施				
		評価指標	R2	R3	R4	R5
		実施計画に対する執行率	65.9%	86.4%	96.8%	99.5%
◆令和5年度の実施状況 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じながら可能な範囲で実施していたが、令和5年5月からの5類移行に伴い、感染への注意等を払いつつ、校外学習、地域の人々との交流、伝統行事の体験などを通じて、地域の良さの発見、愛着心の醸成、ふるさとに生きる意欲の喚起につながった。主な事業として、学校農園や田んぼアート、登山などの自然体験、地域の行事への参加、施設見学等を実施した。 ○小・中・義務教育学校全11校で実施 ○「地域ふれあい交流会」(鷹巣東小)、「森中祭 阿仁前田獅子踊り」(森吉中)など						
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、基本的感染対策としての一律な対応を求められることが無くなったことで、昨年を上回る活動が実施され、実施計画に対する執行率が上昇した。						
◆今後の方向性 ふるさとを愛し、ふるさとを支えようとする子どもたちの育成の更なる創意工夫を促すため、各学校の実態に合わせ、実施計画の内容に応じた配分を続ける。						
◆評価委員の意見 補助金の用途を制限することなく、各校の実態や実施計画に応じて支援しており、大いに評価できる。 コロナ禍後の執行率が100%近くまで上昇している。今後も地域との連携や創意工夫をしながら、各校での特色ある活動の一層の推進を図られたい。						

8	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	小・中学校パソコン導入事業(GIGAスクール構想)					決算額 40,811 千円
◆事業の目的 情報化に順応できる人材の育成のため導入を進めてきたPC及び周辺機器について、新型コロナウイルス感染症対策のため「学びの保障」の一端として整備し直し、一人1台端末による個別最適化により資質・能力を一層確実に育成することを目指すもの。			◆事業概要 これまで三人に1台の想定で導入してきた学習者用タブレットを一人1台配置とした。また、教員の校務の円滑化を図るため導入してきたPC、プリンタ、サーバ等周辺機器について引き続き配置した。			
◆評価指標及び実績		ロードマップ				
			R2	R3	R4	R5
		整備計画 (令和2年度～令和5年度)	高規格化工事			
			タブレット新規購入			
			582台	403台	375台	331台
		高規格化工事	実施			
		新規購入台数	1,428台	-	-	-
		配置替えによる対応台数	263台	-	-	-
◆令和5年度の実施状況 文部科学省のロードマップに沿って整備を計画していたGIGAスクール構想だが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から計画を前倒して整備した。今年度は2校のタブレット端末174台の他、4校の校務用PC、プリンタ、サーバ等の周辺機器を更新した。また、タブレットによるICT学習の推進のため、プログラミング学習用教材ソフト、学習支援ソフト、フィルタリングソフトを導入した。						
◆自己評価 国で示すGIGAスクール構想に基づくIT環境について、令和3年度から本格的に運用を開始している。また今年度は、昨年度導入したフィルタリングソフトに加え、プログラミング学習用教材ソフト及び学習支援ソフトを導入することで、タブレットを活用したICT学習をさらに推進することができた。						
◆今後の方向性 導入したタブレットを活用した学習活動の充実を図ると共に、IT環境の整備と更新は都市部から遅れを取らぬよう検討する。						
◆評価委員の意見 IT環境の整備がなされ、タブレットを活用したICT学習が推し進められている。学習活動の充実を図るため、成果と課題を検証し、より効果的に活用されたい。 令和2年度からの整備計画に基づき、計画的にIT環境が整備され、タブレットを活用したICT学習が各校で推進されていることは高く評価できる。						

9	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実					学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成					
事業名	学校生活サポート員配置事業						決算額 58,725 千円
◆事業の目的 教育的支援を必要とする児童・生徒の学校生活支援及び学校支援を行う。				◆事業概要 各学校の教員と連携の上、必要な支援に取り組む。			
◆評価指標及び実績		例年実施					
		評価指標		R2	R3	R4	R5
児童生徒数	小学校	1,075人		1,033人	992人	953人	
	中学校	602人		564人	572人	558人	
支援対象児童生徒数	小学校	105人		108人	134人	152人	
	中学校	13人		14人	19人	28人	
配置支援員数	小学校	26人		25人	26人	25人	
	中学校	4人		4人	4人	5人	
◆令和5年度の実施状況 特別な支援を必要とする児童生徒180人に対し、学校生活サポート員29名及び看護支援員1名を配置して、学校生活全般にわたって対象児童生徒の支援を行った。また、支援員の研修を行い質の向上に努めた。							
◆自己評価 支援員の配置により、対象児童生徒が充実した学校生活を送ることができたほか、周囲の児童生徒も落ち着いて学習に取り組むことができた。また、担任の負担が軽減されることで、学級経営や授業づくりが充実し、学校全体の教育効果を高めることができた。 また、看護支援員を配置することで、医療的ケアが必要な児童が安心して学校生活を送ることができた。							
◆今後の方向性 対象児童生徒の学校生活の充実と、教員への負担軽減による教育効果の向上を図るため支援員の配置を継続していく。また支援員に対しては対象児童生徒の行動への理解や支援の仕方などのスキルを高めるための研修を行っていく。							
◆評価委員の意見 年々支援対象児童数が増加し、支援員一人当たりの支援人数も増えていると推測する。さらに研修を深め、より効果的な支援に努められたい。 今後も対象児童生徒が充実した学校生活を送ることができるように、支援員の資質能力を高める研修や校内支援体制の充実に努められたい。							

10	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	不登校児童生徒対策事業					決算額 1,326 千円
◆事業の目的 不登校及び不登校傾向の児童・生徒と在籍校や関係機関と連携しながら、その保護者への総合的な支援もを行い、学校復帰を目的とする。			◆事業概要 教育センター内に「北秋田さわやか教室」として、不登校児童生徒をサポートする適応指導教室を設置し、学校復帰に向けた支援や学習指導を行う。			
◆評価指標及び実績		例年実施				
		評価指標	R2	R3	R4	R5
		不登校または不登校傾向児童生徒数	23人	35人	34人	35人
		在籍者数	3人	5人	3人	8人
		うち学校復帰者数	1人	3人	2人	6人
◆令和5年度の実施状況 在籍者8人のうち、6人が学校復帰した。 長期休業日を除く月・火・木・金曜日の午前9時から午後3時45分まで「北秋田市さわやか教室」を開設し、常駐する教員免許所有者1名を配置した。						
◆自己評価 全国的にも不登校(不登校傾向)の児童生徒は増加傾向にあるが、個々の実態に合わせ、丁寧な支援を行って登校・登室に結び付くよう対応している。また、登校支援ネットワーク連絡会議で、関係機関との連携を図っている。						
◆今後の方向性 不登校(不登校傾向)児童生徒の居場所となり、学校復帰に向けた取組ができる重要な場所として今後も継続する。また、生徒の実態に合わせて学校訪問による指導を行い、学校復帰に向けたきめ細やかな支援を行うとともに、引き続き登校支援ネットワーク連絡会議で、あきたリフレッシュ学園等の関係機関と連携を図っていく。						
◆評価委員の意見 通級児童生徒が高い割合で学校復帰を果たしている。生徒の実態に即した学校訪問による指導に注目したい。学校復帰に向けた在籍者への適切な支援がなされているとともに、関係機関との連携が機能していることは高く評価できる。						

11	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実			学校教育課	
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	小・中学校校務支援システム導入事業				決算額 7,735 千円	
◆事業の目的 教員の校務負担の軽減と、教育の質的向上を図ることを目的とする。		◆事業概要 教員の校務負担の軽減を図るため校務支援システムを導入し、効果的な運用を行う。				
◆評価指標及び実績		アウトカム				
評価指標		実績		R3	R4	R5
アンケートにおいて、校務に係る作業時間が短くなったと答えた割合、また校務以外の時間が増えた・少し増えたと答えた割合が前年度に比べ増加すること。		校務支援システムを活用することにより、校務以外の時間(児童生徒と向き合う時間、教材研究等)について、増えた・少し増えたと答えた割合		75.9%	79.9%	85.2%
		1ヶ月の時間外在校等時間が年間平均45時間を超える教職員の割合		33.6%	31.6%	40.7%
◆令和5年度の実施状況 システムの運用を継続し、導入の効果の指標としてアンケートを実施している。また令和2年度より、働き方改革に繋げるため、教職員の出退勤時刻について可視化できるよう出退勤管理システムを追加導入し、勤務時間の把握に努めている。						
◆自己評価 出席簿や成績処理などの校務の負担軽減につながっており、校務以外の時間については「増えた・少し増えた」と答えた割合が増加している。今後も校務支援システムの有効な活用方法を周知する。また、1ヶ月の時間外在校等時間が年間平均45時間を超える教職員の割合は、前年に比べ増加しているが、ICT教育等の新たな取組等により、教材研究等の校務以外に費やす時間が増えたことや、学校統合に係る業務、及び令和5年度の学校部活動の活躍により、部活動指導に係る教職員の勤務時間が増加したことなどが要因と思われる。部活動指導に係る教員の負担は大きく、この喫緊の課題を解決するためにも、引き続き出退勤管理による労働時間の可視化の他、部活動指導に係る部活動地域移行など教職員の負担軽減に資する取組と並行しながら、働き方改革の推進を図っていきたい。						
◆今後の方向性 引き続きシステムを運用し、教員の校務に係る負担を軽減して教育の質的向上に繋げる。アンケートについて導入前と比較した項目としているが、時間の経過と共に導入前の実感が薄れており、また新規教員については比較のしようがないため、来年度以降のアンケートについて項目を工夫する。						
◆評価委員の意見 教員の校務負担について成果を上げている当事業を継続しつつ、教員の仕事を減らす働き方改革にできるところから取組を進められたい。 アンケート結果から、校務以外の時間が増えていることは望ましい方向にあると捉えることができる。各校の実態に応じた総合的な働き方改革の取組を期待する。						

12	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実		学校教育課
	方針	目標 その他、特別な事業	
事業名	新型コロナウイルス感染症対策事業		決算額 1,529 千円
◆事業の目的 学校における感染リスクの低減を図り、持続的な学校運営を目的とする。		◆事業概要 各学校の感染症対策に必要な設備及び物品を整備する。	
◆評価指標及び実績		緊急対策	
		品目	実績
		二酸化炭素濃度測定器	98台 1,529,000 円
◆令和5年度の実施状況 令和5年5月から新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類に移行したが、引き続き安全安心な学習環境を確保しつつ教育活動を着実に継続するため、二酸化炭素濃度測定器を整備し、感染拡大防止に努めた。			
◆自己評価 各学校において、感染症対策を徹底しながら、児童生徒の安心安全な学習環境を確保しつつ、学校での教育活動を実施することができた。			
◆今後の方向性 引き続き検温や校内の消毒、適度な換気、手洗いの奨励により感染予防に努める。			
◆評価委員の意見 感染症の流行は学校の教育活動に大きな影響を及ぼす。今後も継続して感染症対策の徹底を図られたい。 感染症対策に必要な物品を整備し、感染リスクの低減に取り組んでいる。引き続き既存の物品等を活用し効果的な感染予防に努められたい。			

13	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・		生涯学習課				
	方針	目標 その他、特別な事業					
事業名	新成人事業		決算額 820 千円				
◆事業の目的 「二十歳の集い」への参加を通して、責任ある社会人としての自覚を促し、ふるさとを支える志の醸成につなげる。		◆事業概要 市内在住者及び市内中学校・大館国際情報学院中学校を卒業し、二十歳を迎えた人を対象に「二十歳の集い（式典・講演・写真撮影）」を実施する。 対象者で組織する実行委員会を設けて、「二十歳の集い」の自主的な運営を促している。					
◆評価指標及び実績		例年実施					
二十歳の集い(成人式)の参加率							
		R3		R4	R5		
		R2対象者	R3				
実績		R1	R2				
対象者数		318人	289人	296人	303人	261人	222人
参加者数 (オンライン)		244人	180人	51人	107人	161人	145人
		-	-	(41人)	(40人)	(12人)	(8人)
参加率		76.72%	未実施	31.08%	48.51%	66.28%	68.91%
				※R2は未実施であったため参加者数には申込者数を記載 ※R3以降の参加率は、オンライン参加者も含む			
◆令和5年度の実施状況 二十歳を迎えた市内中学校出身者等を対象に「二十歳の集い実行委員会」を組織し、記念講演の講師や開催の方向性について協議した。 「二十歳の集い」を8月15日に開催し、当日のマスク着用については個人の判断としたが、検温、手指消毒の感染対策は行った。また、会場参加できない方のために、オンラインでの配信を行った。							
◆自己評価 対象者で組織する「二十歳の集い実行委員会」を設けて、対象者が主体的な運営を図ることができた。 記念公演では、「伝える・伝わる・繋いでいく」と題し、北秋田市阿仁地区出身のMASAさんが所属するパントマイムデュオGABEZ(ガベジ)によるパフォーマンスと講話によって、二十歳を迎えた方々にエールを送り門出を祝福することができた。							
◆今後の方向性 郷土愛を育む取り組みの一つの行事として、今後も継続して実施していく。 また、自ら運営する「二十歳の集い」とするため、実行委員の役割分担を明確にし、式典内容の充実を図るとともに全体の参加率の増加を目指す。							
◆評価委員の意見 内容の濃い工夫をされた「二十歳の集い」が行われている。新成人が主体となって運営することにより、参加者の増加が期待できるのではないかと考える。 実行委員会による計画・運営は、対象者の意向を取り入れ、主体性や自覚を促すよい取組である。参加率が徐々に上がっていることも評価できる。							

14	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課
		目標 ① 協働による持続可能な地域づくり					
事業名	日本語教室開催事業						決算額 545 千円
◆事業の目的 主に外国人配偶者や就労のため市内に在住する外国人を対象に、日本語の読み書きや日常会話習得、検定合格等を目的とする。				◆事業概要 講師1人、指導員2人により毎月3～4回日本語教室を開催し、日本語の習得と日本文化の理解につながるようにサポートする。			
◆評価指標及び実績		例年実施					
日本語教室の開催回数及び受講者数							
	実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	授業回数	35回	35回	37回	32回	39回	43回
	受講者数 (延べ)	164人	208人	258人	135人	150人	209人
◆令和5年度の実施状況 主に外国人配偶者や就労のため市内に住んでいる技能実習生、市内小中学校ALTを対象に、日本語の読み書きや日常会話習得、検定合格等を目標に教室を開催した。また、クリスマスパーティーには約20名が参加し、各国の料理を食べ比べしながら交流を深めた。							
◆自己評価 市内に在住している外国人が日常生活を送るために必要な日本語の習得のほか、資格取得のための学習にも活用されている。 また、地域の文化に触れながら日本語を学ぶ授業を行っており、授業で学んだ内容を実践するだけでなく、日本文化の理解促進を図ることができた。							
◆今後の方向性 引き続き、日本語の指導や教室でのコミュニケーションを通して、受講者の日本での生活サポートを行っていく。今後、技能実習生の増加が考えられるので、更に充実させた開催を心がけていく。							
◆評価委員の意見 外国人在住者が地域になじんで生活できるよう、日本語のみならず様々な面から指導・支援がなされている。資格の取得は就労の安定と機会拡大につながり、大いに評価したい。 授業回数の増加や受講者数の増加は、受講者のニーズに応えた結果と捉えることができる。今後も受講者にとって、日本の生活に潤いをもたらす魅力ある学習内容を期待する。							

15	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課	
		目標 ① 協働による持続可能な地域づくり						
事業名	青少年育成事業							決算額 537 千円
◆事業の目的 青少年が誇りと責任についての自覚を高めるため、非行及び事故防止と社会環境の浄化を図る。青少年の健全育成を図るための地域組織の推進を図る。								◆事業概要 生涯学習課が事務局の青少年問題協議会や、その構成団体である「青少年育成北秋田市民会議」及び「少年保護育成委員会」が、非行防止活動や青少年の見守り活動を実施し、健全な成長の支援活動を行う。（その他構成員：民生児童委員、保護司会、市議2名、警察署長、健康福祉部長ほか全18名）
◆評価指標及び実績								
例年実施 青少年育成事業の実施内容								
			R1	R2	R3	R4	R5	
小中高等学校あいさつ運動（実施回数）主催：市民会議			12回	7回	11回	11回	11回	
伝承芸能合同発表会（実施有無）主催：市民会議			○	×	×	○	○	
研修会の実施（実施有無）主催：問題協議会			○	×	○	○	○	
◆令和5年度の実施状況 青少年育成市民会議等が、市内小中高等学校でのあいさつ運動（5月～10月：計11回）及び街頭啓発活動を行った。また、子どもたちの伝承芸能合同発表会を11月18日に開催し、4団体が出演し、郷土に対する誇りを持つことができた。 また、6月12日に青少年問題協議会を開催し、関係団体や行政機関が活動報告や問題意識の共有を行った。研修会では講師に高橋秀一氏を迎え、「子どもたちの今を生きる大人の役割」について学んだ。								
◆自己評価 関係団体や行政機関が、青少年を取り巻く環境について問題意識の共有を図ることができた。また、各小中高等学校でのあいさつ運動、街頭啓発活動を行い、青少年の健全育成を図るための地域組織活動の推進につなげることができた。								
◆今後の方向性 引き続き、地域の大人が青少年を育成するための課題や情報を共有する場を提供する。 また、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策を講ずるための調査審議を行い、必要な関係行政機関相互の連絡調整を図る。								
◆評価委員の意見 青少年健全育成のための地域組織活動が計画的に行われている。さらに関係機関相互の連携を図り、活動を推進されたい。 青少年育成事業の取組は、地域全体で子どもを育てる環境づくりの一翼を担っている。今後も必要な関係機関と連携し、青少年の健全育成に努められたい。								

16	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課	
		目標 ① 協働による持続可能な地域づくり						
事業名	花いっぱい運動推進事業							決算額 324 千円
◆事業の目的 花の美しさは、明るい社会を築くうえで大きな役割を果たすため、花だんづくりを通した美しいまちづくりと地域づくりを目指す。								◆事業概要 北秋田市花いっぱい運動推進協議会が主催する「北秋田市花だんコンクール」を支援する。市の花あじさいの植栽普及など地域ぐるみで環境美化運動の推進を行う。
◆評価指標及び実績								
例年実施								
花だんコンクール参加者数								
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	
		14団体 4個人	12団体 3個人	16団体 1個人	14団体 2個人	14団体 3個人	14団体 3個人	
◆令和5年度の実施状況 「めざせ！花と笑顔いっぱいの北秋田市」をスローガンに、北秋田市花いっぱい運動推進協議会主催の市花だんコンクールを支援し、開催することができた。コンクールには14団体3個人が応募し表彰式を行った。 また、花いっぱい運動推進協議会では、花の苗の育成と花種の頒布、5月には市の花あじさいの植栽事業（清鷹小学校）を実施した。 県の花だんコンクールにおいては、比内支援学校たかのす校が花のまちづくり賞を受賞、鷹巣小学校がモデル花だん指定を受けた。								
◆自己評価 市花だんコンクールの開催や花育活動を通して、美しいまちづくりと地域づくりへの啓蒙活動を推進することができた。また、市の花あじさい植栽普及など、環境美化運動を推進することができた。								
◆今後の方向性 引き続き、花だんコンクールや地域と小・中学校が連携した植栽活動を通して、花を育てることで心が潤い地域が元気になる交流型の取り組みや環境美化の意識共有を図る。								
◆評価委員の意見 花だんコンクールの参加者は安定した数を維持している。今後も花で彩られたまちや地域づくりのための支援や取組を推進されたい。 花だんコンクールや植栽事業の取組は、美しいまちづくりと地域づくりの礎となっている。コンクール参加者以外の活動を紹介する等して、花で彩られた美しいまちづくりの推進を図られたい。								

17	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・		生涯学習課							
	方針	目標 ③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携								
事業名	地域学校協働本部事業					決算額 406 千円				
◆事業の目的 地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行い、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を育む。			◆事業概要 より多く、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成する。							
◆評価指標及び実績			アウトプット							
評価指標 地域学校協働活動推進員数(統括含む) 30人 (過去3年間の平均)			R1	R2	R3	R4	R5			
			32人	29人	28人	25人	19人			
地域学校協働活動に参加したボランティアと子どもの満足度 90%			アウトカム							
			R1	R2	R3	R4	R5			
			—	—	100%	100%	90.5%			
◆令和5年度の実施状況 市内全校に学校運営協議会が導入されており、各校の学校運営協議会において地域学校協働活動推進員の委嘱を行った。 研修会を鹿角市と合同で行い、パネルディスカッションでは北秋田市の事例紹介を行った。 北秋田市教育委員会と東京都健康長寿医療センター研究所が連携して実施しているSOSの出し方授業は米内沢小学校で実施した。										
◆自己評価 市内全校に学校運営協議会が導入され、地域と学校の連携、地域ぐるみの人材育成の取組の基盤ができた。 研修会では、他地域の事例から協働活動の意義や地域と学校それぞれに期待される役割などについて考えることができた。										
◆今後の方向性 引き続き、各校との連絡調整や地域学校協働活動推進員の情報交換や研修会等を実施し、課題の共有や解決に向けた取り組みを実施する。										
◆評価委員の意見 子どもたちは地域の中で生活をしており、地域との関わりは重要である。地域学校協働活動推進員数が年々減少しているが、子どもたちの成長を育む有益な取組を今後も期待したい。 地域学校協働活動推進員と当該校が抱える課題を明確にしながら、課題解決に向けた研修会等を通して共通理解を図り、地域全体で子どもを育てる環境づくりの推進に努められたい。										

18	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・		生涯学習課				
	方針	目標 ② 共に学びあえる生涯学習の推進					
事業名	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業		決算額 46,933 千円				
◆事業の目的 「憩い・交流・にぎわい」をコンセプトに中心市街地の拠点施設として、市民の自由な交流・活動の場であり、市民ふれあいプラザを拠点として学習活動を行う市民を増やし、交流人口の増につなげる。		◆事業概要 中心市街地の拠点施設として、市民のニーズを取り入れながら、多くの人に利用される施設となるよう適切な管理運営を行う。					
◆評価指標及び実績		アウトプット					
評価指標	市民ふれあいプラザ利用者						
ふれあいプラザ利用者(単年) 64,400人	実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	来館者数	295,481人	286,859人	216,829人	224,321人	225,171人	249,220人
	利用者数(単年)	67,859人	60,937人	40,227人	48,140人	55,234人	61,369人
	利用件数	4,552件	4,625件	4,121件	4,410件	4,582件	4,985件
◆令和5年度の実施状況 生涯学習活動の場としてのみならず、中心市街地の拠点施設として様々な年代の方や団体に利用されており、来館者は249,220人で前年比110.7%、利用者は61,369人で前年比111.1%と回復してきている。 また、3月25日には開館から200万人目となる来館者を迎え、市長とともに記念セレモニーを行った。							
◆自己評価 各種サークル団体への活動支援(使用料減免等)を図るとともに、チャレンジブースやねまーる広場の周知及び環境を整え、利用しやすい施設となるよう努めた。							
◆今後の方向性 引き続き、中心市街地の活性化を図る拠点施設として、市民が集い交流できる場としての管理運営を心がける。 また、災害避難場所としても役割も担っていく。							
◆評価委員の意見 コロナ禍後、順調に利用者数が増加している。学生から高齢者まで幅広い世代の人々のニーズに応えた利便性の高い施設の管理運営に今後も期待したい。 コロナ禍前よりも利用件数が増加傾向にあることは、市民目線で諸団体の活動支援や各種団体が利用しやすい環境を整えている成果であり高く評価できる。							

19	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課		
	方針	目標 ② 共に学びあえる生涯学習の推進						
事業名	高齢者教育事業						決算額 534 千円	
◆事業の目的 高齢者の学びの機会を充実させ、生きがいづくりや仲間づくりを目的とする。			◆事業概要 市内4地区(鷹巣、合川、森吉、阿仁)において、高齢者大学入学式・卒業式、全体講座(年5回程度)、社会見学等を行っている。鷹巣地区では、月1回程度のクラブ活動も実施している。					
◆評価指標及び実績			アウトプット					
地区別受講者数								
地区別受講者数(単年) 鷹巣171人以上 合川76人以上 森吉63人以上 阿仁48人以上 (過去3年間の平均)			実績	R1	R2	R3	R4	R5
			鷹巣地区	216人	182人	175人	158人	149人
			合川地区	83人	77人	77人	75人	69人
			森吉地区	82人	60人	70人	61人	66人
			阿仁地区	57人	50人	49人	45人	40人
			合計	438人	369人	371人	339人	324人
受講者の満足度調査 90%			アウトカム					
				R1	R2	R3	R4	R5
			満足度	—	—	69%	86%	76%
◆令和5年度の実施状況 受講者数は減少傾向にあるものの、各地区で活発に事業を実施し、4地区の受講者が一堂に集まる合同講座は「一般公開」として広く市民に周知し、成田為三生誕130年と浜辺の歌音楽館開館35周年を併せ、秋田声楽研究会混声合唱団を講師に招いて開催し、受講者以外の市民の参加があり、より満足度が高い参加型の講演を実施した。 また、鷹巣地区の学園祭では、演示発表やクラブの活動紹介をし、日頃の成果を発表する場を創出したことで受講者の意欲の高揚に繋がった。								
◆自己評価 受講者の高齢化による自然減の影響により、受講者数は減少傾向となっており評価指標を達成することが出来なかったが、受講者の生きがいづくりや交流の場を確保し、前向きに学習する機会を提供することができた。								
◆今後の方向性 引き続き、高齢者の生きがいづくりはもちろん、受講者個々の自主的な学習意欲を高める学びの機会を提供する。また、受講者の意見を反映しつつ、より多くの受講者が参加できるよう魅力ある講座を企画・実施していく。								
◆評価委員の意見 高齢者の生きがいと学びの場となっている。受講者の満足の低い原因を探り、講座の企画・実施に生かすよう努められたい。 4地区合同講座を一般公開として、広く市民にも周知を図り、より多くの市民が満足した学習ができたことは高く評価できる。引き続き、学びの機会提供と充実に努められたい。								

20	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課
	目標	② 共に学びあえる生涯学習の推進					
事業名	公民館講座開設事業						決算額 2,478 千円
◆事業の目的 心の豊かさや生活の向上のために学習機会の提供を行い、その学習を通して地域活動への参加を促進することを目的とする。				◆事業概要 定期講座・短期講座・公開講座を各公民館及び北秋田市民ふれあいプラザにおいて、生涯学習の推進のため開催する。			
◆評価指標及び実績							
評価指標		アウトプット					
定期講座・短期講座・公開講座							
自主講座への移行数 25講座(過去5年間の累計)		R1	R2	R3	R4	R5	
	講座開催数	371回	355回	330回	322回	349回	
	延べ受講者数	3,460人	4,253人	3,622人	3,600人	4,049人	
	自主講座移行数	31	35	23	23	24	
	自主講座講師人数	157人	164人	182人	199人	192人	
アウトカム							
自発的に学習する市民の割合 60.0%		R1	R2	R3	R4	R5	
	自発的に学習する市民の割合	57.9%	58.7%	63.5%	63.5%	60.1%	
◆令和5年度の実施状況 各公民館及び市民ふれあいプラザにおいて各種講座を開催し、学びの場を提供した。 また、生涯学習フェスタや文化祭で学習の成果を発表(展示)した。 《定期講座数・延べ受講者数》 鷹巣【定期】16講座(1,788人)【短期】27講座(443人) 合川【定期】8講座(609人)【短期】11講座(275人) 森吉【定期】5講座(410人)【短期】8講座(140人) 阿仁【定期】4講座(289人)【短期】2講座(95人) 計 81講座(4,049人)							
◆自己評価 継続した学びの場を提供するため、様々な短期講座を企画し市民ニーズの把握に努めた。 また、講座を通して新たな趣味の発見や仲間づくりにつなげることができたほか、合川公民館の「民謡講座」では学びの成果を施設訪問で発表するなど地域に還元する場を設けることできた。							
◆今後の方向性 受講修了後のアンケート実施や短期講座の開催などを通し、市民の学びのニーズを把握する。 また、地域課題に対し関心を持ってもらい、主体的に講座に参加してもらえるよう講座運営に努めるほか、SNS等を活用した情報発信により、幅広い年代への周知を図る。							
◆評価委員の意見 市民のニーズを把握した講座を企画し、市民に学びの場を提供している。SNS等を活用した情報発信による周知活動に注目したい。 各種講座を通して、市民のニーズに基づいた講座を企画したり、仲間づくりや学んだことを地域に還元する場を構築したりしていることは高く評価できる。							

21	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・		生涯学習課				
	方針	目標 ② 共に学びあえる生涯学習の推進					
事業名	公民館管理事業		決算額 79,038 千円				
◆事業の目的 地域の拠点として、多くの市民に親しまれる公民館を目指し、学び・発表の場や地域活動の場を提供する。		◆事業概要 適切な維持管理により、施設利用者の安全・安心に努める。また、施設の使用許可申請や使用料減免制度等を整備し、利用者の利便性向上を図る。					
◆評価指標及び実績		例年実施					
年間施設利用者数							
	実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	鷹巣地区	30,843人	34,095人	23,844人	27,547人	26,484人	27,586人
	合川地区	23,193人	21,146人	4,404人	4,154人	16,925人	28,263人
	森吉地区	18,026人	17,279人	12,508人	15,316人	15,309人	18,940人
	阿仁地区	12,609人	11,819人	6,548人	7,947人	9,612人	10,673人
		84,671人	84,339人	47,304人	54,964人	68,330人	85,462人
＊利用者数は対前年比17,132人の増(125.1%)であった。							
◆令和5年度の実施状況 定期的に施設内外の点検を行い計画的に修繕等を実施し、利用しやすい施設整備に努めた。							
◆自己評価 計画的に施設の維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して利用することができるよう提供することができた。 また、森吉・阿仁公民館にWi-Fi環境を整備し、利用者の利便性を図ることができた。							
◆今後の方向性 各公民館施設は、学びの場、地域活動の場、また災害時の避難場所としても必要不可欠な地域の拠点施設として、事業を継続し長寿化を図っていく。 また、森吉公民館の大規模改修や建替について、検討を行っていく。							
◆評価委員の意見 前年度より大幅に利用者数が増加し、地域の拠点施設として評価できる。今後も計画的な施設の維持管理に努め、利便性の向上に努められたい。 地域の拠点施設として公民館が機能するように、施設利用者の安全・安心やWi-Fi環境を整備する等利用者の利便性に努めており高く評価できる。							

22	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課																												
	方針	目標 ① 協働による持続可能な地域づくり																																
事業名	図書館事業				決算額 18,696 千円																													
◆事業の目的 市民の学習の場の提供のため、図書の充実と施設の維持管理とを図る。また、読書活動の推進に努め、図書館・公民館図書室のネットワークサービスの充実を図る。					◆事業概要 ・市内2図書館(鷹巣・森吉図書館)、2図書室(合川・阿仁公民館図書室)の図書購入、貸出・管理 ・北秋田市図書館協議会の開催 ・北秋田市子ども読書活動推進事業の推進 ・きたあきた読書まつりの開催 ・市内保育園・認定こども園児の図書館体験デーの実施																													
◆評価指標及び実績																																		
貸出冊数 評価指数(目標値) 40,971冊以上 (個人と団体を合わせた貸出冊数で、過去3年間の平均)		<table><tr><th colspan="2">アウトプット</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><th colspan="2">実績</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr><tr><td colspan="2">貸出冊数(個人) ※2館、2室分</td><td>44,374冊</td><td>40,594冊</td><td>40,534冊</td><td>38,455冊</td><td>38,358冊</td></tr><tr><td colspan="2">貸出冊数(団体) ※2館、2室分</td><td>1,428冊</td><td>1,473冊</td><td>1,022冊</td><td>835冊</td><td>4,103冊</td></tr></table>					アウトプット							実績		R1	R2	R3	R4	R5	貸出冊数(個人) ※2館、2室分		44,374冊	40,594冊	40,534冊	38,455冊	38,358冊	貸出冊数(団体) ※2館、2室分		1,428冊	1,473冊	1,022冊	835冊	4,103冊
アウトプット																																		
実績		R1	R2	R3	R4	R5																												
貸出冊数(個人) ※2館、2室分		44,374冊	40,594冊	40,534冊	38,455冊	38,358冊																												
貸出冊数(団体) ※2館、2室分		1,428冊	1,473冊	1,022冊	835冊	4,103冊																												
利用者数 評価指数(目標値) 貸出人数 14,700人以上 来館者数 33,219人以上 (過去3年間の平均)		<table><tr><th colspan="2">アウトプット</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><th colspan="2">実績</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr><tr><td colspan="2">貸出人数 ※2館、2室分</td><td>16,191人</td><td>14,745人</td><td>14,964人</td><td>14,390人</td><td>14,697人</td></tr><tr><td colspan="2">来館者数 ※2館のみ</td><td>37,325人</td><td>34,497人</td><td>33,573人</td><td>31,587人</td><td>33,109人</td></tr></table>				アウトプット							実績		R1	R2	R3	R4	R5	貸出人数 ※2館、2室分		16,191人	14,745人	14,964人	14,390人	14,697人	来館者数 ※2館のみ		37,325人	34,497人	33,573人	31,587人	33,109人	
アウトプット																																		
実績		R1	R2	R3	R4	R5																												
貸出人数 ※2館、2室分		16,191人	14,745人	14,964人	14,390人	14,697人																												
来館者数 ※2館のみ		37,325人	34,497人	33,573人	31,587人	33,109人																												
きたあきた読書まつり、読書感想文・読書感想画コンクール		<table><tr><th colspan="2">例年実施</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr><tr><td colspan="2">読書まつり来館者数 ※2館、2室分</td><td></td><td>2,118人</td><td>3,496人</td><td>3,416人</td><td>1,907人</td></tr><tr><td colspan="2">コンクール応募者数</td><td>563人</td><td>517人</td><td>523人</td><td>426人</td><td>447人</td></tr></table>				例年実施									R1	R2	R3	R4	R5	読書まつり来館者数 ※2館、2室分			2,118人	3,496人	3,416人	1,907人	コンクール応募者数		563人	517人	523人	426人	447人	
例年実施																																		
		R1	R2	R3	R4	R5																												
読書まつり来館者数 ※2館、2室分			2,118人	3,496人	3,416人	1,907人																												
コンクール応募者数		563人	517人	523人	426人	447人																												
※きたあきた読書まつりは、R2年度より2館、2室で本格開催(R1は試験的实施)																																		
◆令和5年度の実施状況 市読書感想文・感想画コンクールや市内認定こども園・保育園10園の園児を対象にした「図書館体験デー」を実施した。また、読書週間に合わせて、10月26日から12月10日まで「きたあきた読書まつり」を開催し、市読書感想文・感想画コンクールの表彰式や読み聞かせおはなし会スペシャル及び貸出冊数の増と貸出期限の延長、特別展示、自前の本へのブックコートサービス、選書体験、小イベントの実施、雑誌の無償配布を行った。																																		
◆自己評価 貸出冊数の実績について、団体貸出の増により、評価指数を超えることができた。 「きたあきた読書まつり」については、貸出冊数の増と貸出期限の延長を喜ぶ声も多く聞かれ、ブックコートサービスの申込や小イベントに参加する人も多かった。例年人気の雑誌のリサイクルも用意している冊数が全部配布できるなど、利用者の反響も良くて、子どもから大人まで読書に親しむ機会を提供できた。																																		
◆今後の方向性 年度末に実施している図書館・公民館図書室利用者アンケート結果を元に、評価指標に達しなかった項目について、原因を分析しながら、全体として図書館で実施しているイベント、新着本などの情報周知を工夫し、実施している事業等の改善に取り組み、利用者の利便性につなげていきたい。																																		
◆評価委員の意見 利用者アンケートを実施して課題克服に生かしている。日本人の著しい読書離れが報道されているが、少しでも本に親しむ市民を増やすべく、前向きな取組を今後も期待したい。 生涯にわたって読書に親しむための各種事業が、幼児期から系統的に工夫を凝らし実施されている。今後もアンケート結果に基づき、利用者の利便性の向上に努められたい。																																		

23	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課		
	方針	目標 ③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携						
事業名	放課後子ども教室推進事業					決算額 1,559 千円		
◆事業の目的 放課後や週末等において、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する。			◆事業概要 放課後子ども教室を開催し、放課後に勉強やスポーツ、文化活動、交流活動などを行い、子どもたちの学校教育以外の様々な体験・交流活動の機会を作る。					
◆評価指標及び実績			アウトプット					
放課後子ども教室の開催回数と参加人数及び指導者数								
開催回数 87回 参加人数 2,324人 (過去3年間の平均)			実績	R1	R2	R3	R4	R5
			開催回数	150回	89回	84回	90回	81回
			参加人数	3,796人	2,289人	2,339人	2,344人	2,157人
			指導者数	22人	24人	22人	20人	20人
◆令和5年度の実施状況 地域住民の参画を得ながら、鷹巣東小を除く8教室で放課後子ども教室を開催した。阿仁地区では、小学校の統合により義務教育学校阿仁学園となり、子ども教室の開催場所が校舎の一室から地区公民館内に変更になったことで、放課後に子ども教室までの移動がネックとなり、参加児童が減少している。 また、指導員の高齢化と他業務とのかけ持ちにより、開催回数が減少する教室もあったが、各地区の指導員と日頃からの打合せを密にして教室のフォローを行い、児童に飽きさせない様々な体験学習の企画に努めた。								
◆自己評価 事故なく放課後子ども教室事業を継続し、子どもたちが安全・安心して過ごせる居場所づくりができた。 特に、畑でさつまいもを育て、植えつけから収穫、食べるまでの一連の過程を体験するなど、食物や生命に関する内容の企画をしたことで児童と地域の方々が一緒になり、楽しみながら学びを深めることができた。								
◆今後の方向性 子どもたちに地域の自然や文化を教えることで、地域の魅力を伝えていく取り組みとともに地域の中で指導員やボランティアを担ってくれるような人材の確保をし、活動回数の維持を図りたい。今後も児童が学校では出来ない体験と学びを得られるよう、指導員への支援を継続していきたい。 また、今後は小学校の統合が増える影響で、開催回数と参加者の減少が予想され、各地区の状況に合わせて臨機応変に教室を開催し継続実施していきたい。								
◆評価委員の意見 地域の自然や文化を知る体験活動は、児童の成長にとって貴重なものである。また指導員や地域の人々との関わりも児童のひととのつながりを広げるよい機会であり、今後も一層の取組を進められたい。 小学校統合により従来の放課後子ども教室の実施が難しくなっている中、各地区の状況に応じて工夫して教室を実施している。今後、地域学校協働活動と連携した組織づくりに努められたい。								

24	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・					生涯学習課
	目標	③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携					
事業名	家庭教育支援推進事業					決算額 480 千円	
◆事業の目的			◆事業概要				
<p>健やかな子どもの育成を目指し、全ての親が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域の多様な人材で構成する「家庭教育支援チーム」を設置し、親の学びや育ちを応援するとともに、家庭と地域・学校をつなげ、地域全体で家庭教育を支援していく。</p>			<p>・家庭教育講座 乳幼児から小・中学校の子どもを持つ保護者を対象に、家庭教育に関する講座を開催する。</p> <p>・家庭教育支援チーム にこっと 8名の支援員から構成され、市のイベント等で、親子のふれあいサロン、家庭教育相談窓口開設、手作りおもちゃブースの対応等を行っている。</p>				
◆評価指標及び実績			例年実施				
家庭教育講座数とチーム員数							
		実績	R1	R2	R3	R4	R5
		家庭教育講座	5件	2件	2件	3件	3件
		サロン実施数	2回	0回	2回	3回	4回
		チーム員数	8人	8人	8人	8人	8人
◆令和5年度の実施状況							
○家庭教育講座							
6月24日（七日市保育園）「自然の中で親子で楽しくあそぼう」							
10月5日（認定こども園しゃろーむ）「加齢を華麗に！」							
10月28日（綴子保育園）「生涯を支える根っこを育てる」							
○親子遊びサロン（自主活動）							
6月11日、6月18日、6月25日、9月30日 親子遊びサロン（北欧の杜公園）							
○家庭教育支援チーム							
活動の準備作業や話し合いのために毎月チーム会議を行った。							
自主活動として親子あそびサロンを4回開催し、市内外の親子に楽しんでもらう時間を提供することで親子のふれあいの時間を創出した。また、人権擁護委員協議会北秋田部会主催の綴子小学校人権擁護教室で、講師として朗読劇を行い、子どもと一緒にいじめや人権について話し合うなど子どもたちの心の発達支援と育成を図った。							
◆自己評価							
チーム員の活動を支援するとともに、家庭教育支援には親子のふれあいが重要というチーム員の考えのもと、親子のコミュニケーションの機会を積極的に作り、自主活動として親子遊びサロンを春と秋に開催することができた。							
また、今年度より家庭教育支援チーム「にこっと」が国（文部科学省）に登録された。							
◆今後の方向性							
家庭教育支援チームとしては、チーム独自の活動を行いたいと考えており、より多くの人に活動を知っていただくことで支援する機会を増やしたいと考えている。また、幼・保育園や小学校の親子学習会などで講演する場をいただき、地域の信頼を得て親子に寄り添った活動と積極的に親子のつながりと家庭教育の大切さを伝えていきたい。							
◆評価委員の意見							
家庭教育支援チームが文部科学省に登録されたのを契機に、これまで以上に周知を図り、家庭教育支援の取組の場を広げられるよう期待したい。							
4地区2名からなる計8名のチーム員が、自主活動として各々のキャリアを生かし、親子のふれあいの場を提供したり、親同士のつなぎ役として活動したりしていることは高く評価できる。							

25	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・					生涯学習課																					
		目標 ⑤ 文化財保存・継承の推進																										
事業名	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業 (伊勢堂岱遺跡世界遺産管理事業)						決算額 448 千円																					
◆事業の目的 伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産一覧表への記載を目指す。(令和3年7月に登録された)				◆事業概要 構成する17遺跡の関係自治体が連携・共同し、縄文文化や縄文遺跡の価値を伝え、理解を深める。フォーラムの開催や活用事業等を通して、世界遺産の価値について広く情報を発信する。																								
◆評価指標及び実績																												
ロードマップ																												
<table><tr><td>H20</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td colspan="5">世界遺産登録に向けた事業の実施</td><td></td><td></td></tr><tr><td>国の暫定一覧表に記載</td><td>文化遺産国内候補</td><td>ユネスコへの推薦決定</td><td>イコモス現地調査</td><td>世界遺産登録</td><td>保存活用</td><td>保存活用</td></tr></table>								H20	H30	R1	R2	R3	R4	R5	世界遺産登録に向けた事業の実施							国の暫定一覧表に記載	文化遺産国内候補	ユネスコへの推薦決定	イコモス現地調査	世界遺産登録	保存活用	保存活用
H20	H30	R1	R2	R3	R4	R5																						
世界遺産登録に向けた事業の実施																												
国の暫定一覧表に記載	文化遺産国内候補	ユネスコへの推薦決定	イコモス現地調査	世界遺産登録	保存活用	保存活用																						
◆令和5年度の実施状況 17遺跡の関係自治体で構成する縄文遺跡群世界遺産協議会では、本部会議(年1回開催)、協議会全体会(年2回開催)、専門家会議(年2回開催)を開催し、各遺跡の保存管理のあり方、遺跡周辺で行われる開発での対応、活用方法などを議論した。また、観光庁補助金に採択となり、「ストーンヘンジと縄文」シンポジウムを開催し、イギリスの研究者に基調講演を依頼したほか、伊勢堂岱遺跡の今後の観光活用についてジュニアボランティアガイド卒業生2名などによるパネルディスカッションを実施した。さらに、秋田県と共同でフォーラムを令和6年2月に開催し、多くの参加者に遺跡の魅力を説明した。																												
◆自己評価 関係自治体と連携し、世界文化遺産としての伊勢堂岱遺跡の保存・活用・情報発信することができた。																												
◆今後の方向性 伊勢堂岱遺跡の世界文化遺産としての価値を損ねないように、保存管理に努める。また、引き続き、文化庁をはじめとした省庁、県の補助事業を積極的に活用し、遺跡の価値を市民をはじめ広く世界に発信するように事業を実施する。																												
◆評価委員の意見 構成する17遺跡の関係自治体と連携して取組を進めているが、保存活用の仕方にそれぞれ特徴があるようなので、参考にできる点があれば生かしながら情報発信等に努められたい。 関係自治体と連携を図りながら、諸会議を通して遺跡の保存管理に努めている。引き続き国及び県の補助事業等を活用しながら、遺跡の価値を広く情報発信することを期待する。																												

26	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・						生涯学習課
		目標 ⑤ 文化財保存・継承の推進						
事業名	縄文まつり開催事業						決算額 54 千円	
◆事業の目的 伊勢堂岱遺跡の価値や魅力を市民に伝え、様々な体験活動をとらして参加者の交流を図る。世界遺産登録に向けたPRを行う。(令和3年7月に登録された)				◆事業概要 ・縄文体験青空教室(土器・土偶づくり、勾玉づくり、火おこしなど) ・ミニコンサート				
◆評価指標及び実績								
縄文まつり		アウトプット						
参加者数388人(過去4年間平均)以上 縄文まつり参加者数								
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
約300人	約300人	約350人	約600人	—	—	768人	1,201人	
評価指標(数値目標)		アウトカム						
伊勢堂岱遺跡に関する市のイベントや関連団体に参加するなど既に協力している市民の割合							目標値 2.0%	
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
1.9%	1.6%	2.3%	2.2%	1.4%	2.5%	0.3%	2.8%	
◆令和5年度の実施状況 土器土偶づくり・勾玉づくりをはじめとした縄文体験青空教室や、市内音楽団体等出演したミニコンサートを実施した。また、秋田県と連携し、熱気球搭乗体験やドローンで遺跡をみる体験をはじめて実施した。								
◆自己評価 平成13年から継続して開催している本イベントで、もっとも多いの来場者数を記録した。本イベントが遺跡の価値の発信の重要なイベントとして定着したと言える。								
◆今後の方向性 平成13年から継続して開催している本イベントで、もっとも多いの来場者数を記録した。本イベントが遺跡の価値の発信の重要なイベントとして定着したと言える。 今回から清鷹小学校がブースを出展し、地域の特色を生かしたPRを行ったことは、ジュニアボランティアガイドとは異なり、遺跡と地域との関わりを考える上で重要な試みと言える。								
◆評価委員の意見 前年度より参加者数、協力している市民の割合が大幅に増え、事業の開催が市民等に浸透してきている。さらに魅力あるイベントの実施を期待する。 関係団体及び県と連携しイベント内容を工夫することで、参加者が大幅に増加していることは高く評価できる。近隣小学校のブース出展は、増加要因の一つとなるよい取組である。								

27	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・						生涯学習課	
		目標 ⑤ 文化財保存・継承の推進							
事業名	伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業								決算額 22,587 千円
◆事業の目的 伊勢堂岱縄文館を拠点として遺跡の保存と活用を進め、遺跡の理解を深めるとともに、その価値や魅力を発信する施設として維持管理を行う。				◆事業概要 ・遺跡の発掘調査の成果や出土品の展示 ・施設、遺跡の管理及び情報の発信 ・カムバック縄文サーモン、縄文まつり、縄文館講座、ジュニアボランティアガイドの育成などの事業					
◆評価指標及び実績									
縄文館入館者数		アウトプット		評価指数(目標) 10,000人					
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5		
10,184人	6,206人	9,499人	8,287人	5,133人	18,346人	16,871人	14,923人		
評価指標(数値目標)		アウトカム		伊勢堂岱遺跡を見学したことのある市民の割合 目標値 50.0%					
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5		
26.8%	29.7%	30.2%	30.3%	28.9%	31.9%	39.8%	39.4%		
◆令和5年度の実施状況 施設管理、遺跡内の草刈等環境整備や電気柵の管理を滞りなく行った。新型コロナウイルス感染症拡大に配慮しながら、伊勢堂岱縄文館講座(2回)、ジュニアボランティアガイドの活動、「ジュニア英語ガイド研修」など例年の事業に加え、秋田県とは「世界遺産白神山地と縄文遺跡群共同フェア」(豪雨で中止)、鹿角市とは展示品の相互貸出による特別展などの事業を実施した。 また、令和4年度に国のデジタル田園都市国家構想推進交付金の採択を受け整備した、遺跡の360° VRや、出土品の3Dなどの鑑賞システムが令和5年4月から稼働している。									
◆自己評価 施設管理、遺跡内の環境整備を行うことで、来館者の安心安全が図られた。イベントについては、カムバック縄文サーモン、縄文まつり、縄文館講座のイベントは定着しており、ジュニアボランティアガイドの活躍は遺跡の魅力を伝えるための大きな役割を果たしている。 来訪者数について、R5年度は7月の豪雨後にツアーのキャンセルが続いたことから前年度に届かなかった。また、国内の世界文化遺産では登録年度をピークにゆるやかに下降する傾向があると言われている。									
◆今後の方向性 今まで以上に注目されると予想されることから、遺跡の魅力を伝えるための情報発信や、学びの場としての活用を図る。R8年度の開館10周年に向けて、展示内容や館内の設備について改めて検討を要する。 縄文館の展示・解説などで遺跡の学術的な価値をわかりやすく解説できるように、学芸員の能力をさらに高める。 入館者数は世界遺産登録(R3)をピークにゆるやかに下降している。今後も新しい取組を行い、遺跡の価値を引き続き発信する。									
◆評価委員の意見 世界文化遺産登録後、時間の経過とともに人々の遺跡への興味・関心を維持させるのは困難な面はあるが、市民を含めた入館者数・見学者数の増加を目指した新たな企画や取組に期待する。 周辺の自然と調和した各種イベントを工夫し、利用者の安全に留意して実施していることは高く評価できる。各年代層への活動プログラム紹介が、利用者増につながるのではないかと考える。									

28	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・				生涯学習課
	目標	④ 心を豊かにする芸術文化の振興				
事業名	文化会館運営事業				決算額 47,040 千円	
◆事業の目的 市民の芸術文化活動の振興を図るとともに、芸術文化活動団体の育成に寄与する。			◆事業概要 貸館業務 施設の維持管理			
◆評価指標及び実績						
利用者数		アウトプット				
評価指数(目標値)		実 績	R2	R3	R4	R5
12,512人		音 楽	1,635人	4,012人	6,531人	8,345人
(過去3年間の平均)以上		舞 踊	283人	162人	1,459人	1,773人
		映 画	270人	885人	1,183人	1,489人
		演 劇	1,072人	802人	593人	1,150人
		その他(会議等)	4,468人	4,749人	9,432人	10,755人
		合 計	7,728人	10,610人	19,198人	23,512人
◆令和5年度の実施状況 適切な維持管理を行い、音楽や演劇等の発表の場を提供でき、芸術文化活動の振興に貢献した。						
◆工事の概要 会議室床張替、配信環境整備、通信環境整備、非常用照明器具取替					事業費	
					7,181 千円	
◆自己評価 昨年度より利用者が伸び、地域の芸術文化活動の振興に貢献した。また、施設等の適正な管理に努めたことで、多くの市民が安心して利用することができた。						
◆今後の方向性 当館は建設から30年以上経過し、経年劣化が多々見られることから、改修計画策定に着手し、市民に安心して利用してもらえるように努めたい。						
◆評価委員の意見 利用者数が年々増加しており、芸術文化活動の振興に貢献している。大いに評価できる。 利用者数が各項目において増加していることは、利用者の立場を考えた企画・運営の工夫や計画的な施設工事によるものであり、高く評価できる。						

29	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・					生涯学習課
		目標 ④ 心を豊かにする芸術文化の振興					
事業名	文化会館自主事業						決算額 4,557 千円
◆事業の目的 市民が芸術文化に触れる機会を提供する。感性や創造性が育まれ、心豊かな活力ある社会に寄与する。				◆事業概要 公演・映画・展示等のイベントの開催			
◆評価指標及び実績							
文化会館自主事業 評価指数(目標) 来場者数 923人 (過去3年間の平均)以上		アウトプット					
		実 績		R2	R3	R4	R5
公演		実施回数	2回	0回	4回	7回	
		来場者数	153人	0人	1,628人	2,754人	
映画		実施回数	1回	1回	1回	2回	
		来場者数	129人	124人	98人	180人	
展示		実施回数	2回	1回	2回	1回	
		来場者数	208人	未集計	430人	473人	
合計		来場者数	490人	124人	2,156人	3,407人	
◆令和5年度の実施状況							
①自衛隊音楽隊 ②ファルコン民謡祭 ③ファルコンシネマ ④わらび座ミュージカル ⑤中嶋彰子ソプラノ・リサイタル ⑥名曲歌酔いコンサート ⑦全国能楽キャラバンin北秋田 ⑧こどもオペラ「ヘンゼルとグレーテル」							
◆自己評価 市民目線に立った、多くの人が楽しめるイベントを心がけており、「名曲歌酔いコンサート」や「日本全国能楽キャラバンin北秋田」は、ホールが満席となり、多くの市民に対し、質の高い芸術文化を提供できた。また、こどもオペラについては、子連れでも楽しめるよう工夫をし、親子で楽しめるイベントとなった。							
◆今後の方向性 より多くの市民が芸術文化に触れる機会を提供できるよう、市民のニーズに合わせたイベント企画に取り組む。							
◆評価委員の意見 市民のニーズに合わせたイベントを企画し、好評を博している点は大いに評価できる。今後の企画にも期待したい。 多くの市民が芸術文化活動に触れることができるように、各年代層のニーズに応じたイベントを企画し、利用者数増加につなげていることは高く評価できる。							

30	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・				生涯学習課
	目標	④ 心を豊かにする芸術文化の振興				
事業名	みちのく子供風土記館運営事業				決算額 231 千円	
◆事業の目的		◆事業概要				
直木賞作家渡辺喜恵子氏を顕彰するとともに、広く教育・芸術・文化を高め、併せて市民の生活文化の伝承を図る。		貸館業務 施設の維持管理				
◆評価指標及び実績						
利用者数		アウトプット				
評価指数(目標値)		実績	R2	R3	R4	R5
1,978人		利用者数	1,523人	2,278人	2,134人	1,765人
(過去3年間の平均)以上						
大師講の集い		例年実施				
		実績	R2	R3	R4	R5
		参加団体	未実施	未実施	未実施	未実施
◆令和5年度の実施状況						
大師講の集いは、やむを得ず中止となったが、代わりにみちのく子供風土記の会主催で、渡辺喜恵子氏に関する研修会が実施された。音楽や舞踊等の練習の場として利用される事が多く、芸術文化活動の振興に貢献している。						
◆自己評価						
風土記館ゆかりの作家「渡辺喜恵子氏」に触れる事業が少なかった。						
◆今後の方向性						
今一度事業の見直しと、利用者層の調査を行い市民の利用拡大に努めたい。また、適正な維持管理を行い、安全な学習等の場を提供したい。						
◆評価委員の意見						
渡辺氏を顕彰するという事業の一つの目的と実際の利用状況に隔たりもあるようだが、風土記館へ足を運ぶことによって渡辺氏について知ることができる。事業を見直し、市民の利用拡大に努めるのはよいのではないかと考える。						
引き続き建物の間取りや貸館について広報し、幅広い年代層の市民の利用促進を図られたい。						

31	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・				生涯学習課
		目標 ④ 心を豊かにする芸術文化の振興				
事業名	浜辺の歌音楽館運営事業					決算額 6,489 千円
◆事業の目的 浜辺の歌音楽館や成田為三を通じた各種事業を行うことにより、市民が芸術に親しむ機会を提供する。また、成田為三の顕彰と音楽館を拠点とした地域づくりを進め、愛着のある博物館を目指す。			◆事業概要 ・浜辺の歌音楽館少年少女合唱団育成事業 ・成田為三墓前演奏会 ・音楽館定期演奏会 ・愛着ある博物館事業 ・浜辺の歌音楽祭			
◆評価指標及び実績						
浜辺の歌音楽館少年少女合唱団育成事業 対象:小学1年生～高校3年生		例年実施 少年少女合唱団の登録人数及び活動(イベント)数				
		実績	R2	R3	R4	R5
		団員数	29人	24人	24人	21人
		活動数	10件	9件	8件	12件
成田為三墓前演奏会 命日の10月29日前後に実施		例年実施 墓前演奏会への参加団体数				
		実績	R2	R3	R4	R5
		参加団体数	2団体	2団体	2団体	2団体
		参加者数	50人	50人	40人	40人
音楽館演奏会 評価指数(目標値) 1公演の来場者数120人 (音楽館座席可能数)		アウトプット 演奏会の回数と来場者数				
		実績	R2	R3	R4	R5
		回数	未実施	未実施	1回	4回
		来場者数	-	-	45人	93人
愛着ある博物館事業 評価指数(目標値) 利用者数 203人 (過去3年間の平均)以上		アウトプット 音楽館の利用団体数及び利用者数				
		実績	R2	R3	R4	R5
		利用団体数	5団体	18団体	8団体	5団体
		利用者数	139人	249人	222人	128人
浜辺の歌音楽祭 例年11月3日に実施		例年実施 音楽祭への参加団体数				
		実績	R2	R3	R4	R5
		参加数	未実施	未実施	16団体	16団体
◆令和5年度の実施状況 浜辺の歌音楽祭少年少女合唱団育成事業では、活動内容に制限なく事業実施できたが、小学生の団員数が大幅に減少し、イベントなど都合の合う限られた人数での活動を余儀なくされたが、昨年度以上に数多くの活動に取り組むことができた。 成田為三墓前演奏会は、例年通り、2団体(40名)が参加し成田為三を偲び歌い継ぐことが出来た。 音楽館演奏会は、地元出身のピアニストの出演となり、キャンセル待ちが出るなど注目度も高く、好評を博した。 また活用事業として、自由参加型の「みんなのフリーコンサート」を実施した。県内のみならず、県外からの出演もあり、出演者・来場者ともに大好評であった。 愛着ある博物館事業では、各学校の総合学習をはじめ、音楽館での公民館講座利用などにより、音楽を通して、成田為三作品や地域に誇りを持つことができた。 浜辺の歌音楽祭は、コロナ禍の様々な制限を解除し、通常通り開催することができた。						

◆自己評価

概ねコロナ禍前の従来通り実施できた。新規に開催した「みんなのフリーコンサート」は、「開かれた音楽館」としての利活用拡大、「愛着ある博物館」の推進について、大きな取り組みとなった。音楽関係者や演奏者、地域の方々の表現・楽しみの場を提供することができ、地域に愛される博物館として、新たな一歩を踏み出すことができた。

◆今後の方向性

各種事業を継続し、成田為三の顕彰と地域に愛される博物館づくりに取り組む。「みんなのフリーコンサート」は、今後、音楽館の主要事業として継続していきたい。施設・設備的には、開館から35年経過し、館内映像・音響設備機器等が経年劣化してきている。維持管理に不安を感じる箇所が多いので、計画的に設備の更新を図り、健全な運営に取り組みたい。また、収蔵資料の利活用についても積極的に取り組みたい。

◆評価委員の意見

音楽館活用事業は音楽に親しむ場を提供し、音楽館への来場者を増やすとともに、音楽館や成田為三先生の功績などについて知る機会にもなり得る。大いに評価できる取組である。

音楽館演奏会では、活動内容の工夫により、回数・利用者数の増加が見られたり、県内外の出演者・来場者の満足度が高かったりと大いに評価できる。今後も愛着ある博物館としての運営や維持管理の推進に努められたい。

32	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・				生涯学習課
		目標 ④ 心を豊かにする芸術文化の振興				
事業名	文化祭開催事業					決算額 1,800 千円
◆事業の目的 様々な芸術文化活動・公民館活動等を行う市民に、発表・鑑賞の場を提供する。各団体の活動の推進と交流を深めるとともに、広く市民の芸術文化活動の普及と参加意欲の高揚を図り、もって北秋田市の地域文化の発展に寄与することを目的とする。			◆事業概要 北秋田市文化祭の開催			
◆評価指標及び実績						
北秋田市文化祭		アウトプット				
評価指数(目標値)		文化祭の実施				
演示団体数	41団体	実数	R2	R3	R4	R5
展示出品数	1,145点	演示団体数	—	—	41団体	41団体
(R2年度とR5年度の平均)以上		展示出展数	1,408点	1,495点	846点	883点
※R2・R3年度は文化祭中止のため「みんなの作品展」出展数						
◆令和5年度の実施状況 コロナ禍前には及ばないが、昨年に比べて出展数が増えている。日頃の講座等の成果を披露する場であることから、参加者の励みとなっており、市民の方へ芸術文化活動啓発の一助となっている。						
◆自己評価 実行委員会と市の共催となっているが、実際の開催までの事務等は事務局(生涯学習課)頼みであった。そのため、職員への負担が大きいと感じる。						
◆今後の方向性 市民へ芸術文化活動の発表及び鑑賞会の提供、芸術文化を体験できる機会の提供を継続的に行う。また、機構改革後の協力体制を見直し、よりよい文化祭となるよう取り組みたい。						
◆評価委員の意見 市民の芸術文化活動、公民館活動の発表と鑑賞の貴重な場となっており、継続した取組を期待する。 今後も市民の芸術活動の発表及び鑑賞や各団体の活動推進や交流の場として、実行委員会を再構築しながら、芸術文化活動の普及と参加意欲の高揚の推進を図られたい。						

33	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・					生涯学習課
	目標	⑤ 文化財保存・継承の推進					
事業名	文化財保護事業					決算額 3,403 千円	
◆事業の目的 文化財の適正な保護及び継承する。			◆事業概要 文化財保護審議会の開催、個人所有文化財の所在調査、市所有文化財の管理。				
◆評価指標及び実績			例年実施				
確認した指定文化財数							
実 績		R1	R2	R3	R4	R5	※ 実績数／全体数
件 数		22件／96件	43件／97件	12件／94件	42件／95件	24件／95件	
◆令和5年度の実施状況 北秋田市文化財保護審議会を2回開催した。 また、文化財を保存、継承していくため、散逸等がないよう地道な所在確認作業を実施した。							
◆自己評価 第1回審議会では、4年度の事業報告と5年度の事業事業計画を承認し、第2回審議会では5年度の事業報告、指定文化財の所在確認作業についての報告を行った。 また、所在確認作業については所在地域に熊の出没情報などがあり、確認作業を見合わせるなどしたため、確認件数が24件と前年度と比べて半減した。							
◆今後の方向性 指定文化財の所在確認を継続し、適正な保護、管理に努め、地域の宝として次の世代に継承する。 また、未登録文化財の調査の継続し、地域文化財として適正な保存に努める。							
◆評価委員の意見 文化財の保存・継承のための地道な確認作業が行われている。地域の宝として次世代に継承するためにも、文化財の市民への広報活動を期待したい。 次世代に地域の宝として残すために、今後も指定文化財の保護管理及び未登録文化財の調査継続を図りながら、市民に周知を図る取組を期待したい。							

34	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・					生涯学習課	
	目標	⑤ 文化財保存・継承の推進						
事業名	民俗芸能大会事業					決算額 724 千円		
◆事業の目的 市内の民俗芸能等を広く市民に公開するとともに伝承者の意欲及び技術の向上を図る。 また、民俗芸能等の現状を調査し、継承に努める。			◆事業概要 市民俗芸能大会の開催及び民俗芸能団体との意見交換会の開催。					
◆評価指標及び実績								
北秋田市民俗芸能大会			アウトプット					
評価指数(目標値) 交流人数233人 (過去3年間の平均)以上			実績	R1	R2	R3	R4	R5
			参加団体数	4団体	未実施	5団体	4団体	4団体
			交流人数	180人	-	100人	200人	400人
民俗芸能団体との意見交換			例年実施					
			実績	R1	R2	R3	R4	R5
			開催回数	1回	2回	-	1回	1回
◆令和5年度の実施状況 第17回北秋田市民俗芸能大会には、市内から4団体、市外から1団体が出演した。市内からは各地域を代表して、綴子大太鼓下町保存会、上杉獅子踊り保存会、阿仁前田獅子踊り保存会、比立内比喩会が出演し、それぞれの地域で受け継がれてきた芸能を勇壮に披露した。 また、民俗芸能団体との意見交換会では、市内民俗芸能団体と現状把握や今後の活動等について意見を集約した。								
◆自己評価 市外から参加した毛馬内盆踊保存会は、ユネスコ無形文化遺産登録の「風流踊り」を披露し、優雅な舞で観客を魅了した。 また、市内から参加した4団体は、それぞれの地域に伝わる踊りや舞を真剣な表情で勇壮に披露し、400人の観客から大きな拍手が贈られ、大盛況であった。								
ほとんどの保存会等において、会員の高齢化及び少子化の影響が見受けられ、民俗芸能大会に参加できる団体が限られてきているが、地域や保存会、学校や青少年育成事業などと連携を図り、継承活動を強化して続けていくことで、大会を継続したい。								
◆評価委員の意見 交流人口が前年度の倍に増加しており、大会の充実ぶりが窺える。少子高齢化により民俗芸能の継承が難しくなっているようだが、地域や関係団体と連携を図り、大会継続に努められるよう期待したい。 各保存会が抱える高齢化や少子化による諸課題に向き合い、本大会が継承活動の一助となるよう、関係機関と連携を図りながら、民俗芸能団体への支援策を講じられたい。								

35	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・				生涯学習課
	目標	⑤ 文化財保存・継承の推進				
事業名	方言保存継承事業				決算額 0 千円	
◆事業の目的 地域が持つ独自の風土や慣習を表現する一つの文化であり、地域で生活を営み、住んでいた証として引き継がれ残すべき文化である方言を記録し、保存していくことを目的とする。			◆事業概要 方言記録集作成及び文字と音声による記録。			
◆評価指標及び実績						
方言記録集作成地区		<div style="text-align: center;"> </div>				
◆令和5年度の実施状況 市広報で募集したが希望する自治会はなく、対象地区の選定ができなかった。						
◆自己評価 なし。						
◆今後の方向性 本事業は、市内の各地域に伝わる方言を記録・保存するため実施するものである。実施にあたっては、対象地域内で方言言葉の意味や由来、発音などを整理する必要があるため、地域内全体の協力体制が基礎になること、地域リーダー的な方の連携が必須である。ぜひ事業の実施を通して、地域の方言を残したい、地域の団結を高めたなどの強い気持ちがないと事業を継続して進めることが難しいため、地域からの手上げ制を採用している。市広報で対象地域を募集(年1回)している。市からも方言に詳しい人材が地域内にいないか、自治会長等に聞き取りしながら対象地域を選定したい。						
◆評価委員の意見 方言を記録し、保存していくことは重要であるが、そのためには適した人材、膨大な時間と労力を要する。希望する地域がなく、毎年事業を繰り延べるのであれば、別の方向も検討せざるを得ないのではないかと考える。方言を次世代に継承するとすれば、幼児児童生徒が興味をもち、方言記録集を活用したいと思う内容にする必要があるのではないかと考える。編集委員会において内容を検討していただきたい。						

36	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田		スポーツ振興課				
	方針	目標 ① スポーツ環境の充実					
事業名	北秋田市民プール管理運営事業		決算額 22,949 千円				
◆事業の目的 指定管理者制度の活用により、多様化する住民ニーズに効果的かつ効率的に対応するため、公の施設の管理に民間事業者等のノウハウ等を活用しつつ、住民サービスの向上と市民の健康維持増進を図る。		◆事業概要 【指定管理者】 有限会社シバタ 【指定管理期間】 令和2年4月1日～令和7年3月31日 令和 2年度:17,900千円 令和 3年度:17,900千円 令和 4年度:17,900千円 令和 5年度:22,949千円					
◆評価指標及び実績		例年実施	単位:人				
幅広い年代の健康増進及び交流施設として指定管理者と連携し維持管理に努める。	実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	利用者数	56,098	58,799	54,619	54,676	47,259	54,653
	60歳以上	14,510	16,660	16,257	17,917	17,086	19,032
	一般	26,427	28,898	24,147	22,619	18,398	22,997
	高校生	2,515	1,779	1,294	1,309	1,113	1,057
	中学生以下	12,646	11,462	12,921	12,831	10,662	11,567
	◆令和5年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度は大きく利用者が減少したが、今年度は一昨年と同程度まで盛り返した。						
◆自己評価 本事業については、指定管理者制度を導入しているため評価指標は設定していない。 北秋田市民プールの魅力の一つである各種教室については、社会的流行や利用者ニーズに合わせ、更新が図られており、来館者からも好評を得ている。							
◆今後の方向性 利用者が増加傾向にある一方で、教室の実施場所が手狭になっているほか、シャワー数の不足など、施設の収容力に課題がある。建設から15年以上経過しており、長寿命化推進の改修時期でもあることから、課題解決を含めた大改修も検討していく。							
◆評価委員の意見 幅広い世代の市民が利用しており、特に60歳以上の利用者は年度間の減少幅が小さく増加傾向にある。市民の健康寿命を延ばすためにも、指定管理者と連携し、一層利用しやすい施設を目指していただきたい。 一般及び60歳以上の利用者数の増加は、各種教室はじめ住民ニーズに効果的かつ効率的に対応している結果であり高く評価できる。今後も市民の健康維持増進の施設として充実を図られたい。							

37	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田		スポーツ振興課					
	方針	目標 ① スポーツ環境の充実						
事業名	薬師山スキー場管理運営事業		決算額 3,830 千円					
◆事業の目的 地域住民の能力を活用し本施設の効果及び効率を向上させ市民の健康と体力の増進を図る。		◆事業概要 【指定管理者】 今泉自治会 【指定管理期間】 令和2年4月1日～令和7年3月31日 令和 2年度:3,830千円 令和 3年度:3,830千円 令和 4年度:3,830千円 令和 5年度:3,830千円						
◆評価指標及び実績		例年実施	単位:人					
季節及び地域特有のスポーツ施設として継続するため指定管理者と連携し、経営維持に努める。		実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		利用者数	8,435	1,725	6,728	6,870	6,592	3,036
		1日平均利用者	126	86	106	102	100	108
◆令和5年度の実施状況 暖冬による雪不足により、日中が36日、ナイターは20日間しか稼働ができず、3月にいたっては営業を休止せざるを得ない状況であった。								
◆自己評価 本事業については、指定管理者制度を導入しているため評価指標を設定していない。 指定管理者と連携を図り、不具合箇所や課題等について、スピード感をもって解決にあたり、12月の営業開始を迎えることができた。								
◆今後の方向性 ナイター設備のLED化などの施設整備を進め、身近で気軽に行けるスキー場として、利用者の増加に向けた取組を推進していく。								
◆評価委員の意見 近場にある貴重なスキー場であり、指定管理者と連携して経営維持に努められたい。 暖冬による雪不足のシーズンであったが、指定管理者との連携によるスキー場の整備に努める等して、1日平均利用者数が増加している。身近な気軽に行けるスキー場として高く評価できる。								

38	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田		スポーツ振興課					
	方針	目標 ② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化						
事業名	北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業			決算額 594 千円				
◆事業の目的 市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において合宿することを誘致促進を図る。		◆事業概要 市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において宿泊施設や内陸縦貫鉄道の利用に対し、合宿等を行った団体へ補助を行う。						
◆評価指標及び実績		アウトプット						
評価指標 スポーツ・文化活動等に係る合宿誘致数 団体5件 延べ500人 第2次北秋田市総合計画(後期)と同様の数値目標		実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		交付額	300千円	579千円	300千円	0千円	0千円	594千円
		延べ人数	238人	315人	166人	0人	0人	377人
		申請件数	1件	2件	1件	0件	0件	4件
◆令和5年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、3年ぶりに市内で合宿が行われた。								
◆自己評価 今年度、4件の申し込みがあった背景には、合宿実績のある団体への誘致活動や部署間の横のつながりによるものであり、これまでの取組の成果が現れたものと考える。								
◆今後の方向性 夏場に鷹巣体育館を会場に行われた合宿では、連日の猛暑により体調不良になる参加者がいたが、救護室等がなく手当が思うようにできなかった。今後も気温の上昇が見込まれることから、最低限の設備整備を早急に行う。 また、利用者増加に向けて、新たな支援や補助の可能性を研究していく。								
◆評価委員の意見 誘致活動が奏功して市内での合宿が再開された。課題となった施設整備を行い、利用団体の増加に向けた取組を進められたい。 本事業は市民とのトップアスリートの交流及び宿泊施設や内陸縦貫鉄道利用による、地域活性化にもつながる。利用者にとって魅力ある合宿誘致施策を検討し、事業の継続に努められたい。								

39	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田		スポーツ振興課					
	方針	目標 ② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化						
事業名	100キロチャレンジマラソン大会補助事業			決算額 3,000 千円				
◆事業の目的 北秋田市及び秋田内陸地域の情報発信と地域住民による大会運営へのボランティア参加等の支援活動を通じた地域活性化を図る。		◆事業概要 大会運営のため補助金を交付し、円滑な大会運営と参加者の交流及び地域の活性化を図るための補助。 100キロチャレンジマラソン大会補助金 当初予算 3,000,000円						
◆評価指標及び実績		アウトプット		単位:人				
評価指標		実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
100キロの部 1,350人 50キロの部 350人 (定員1,700人)		参加者数	1,447	1,426	延期	延期	1,028	1,572
100キロチャレンジマラソン大会 実行員会が設定する最大参加者 数を評価指標とし設定した。		宿泊者数	1,042	1,014	延期	延期	715	811
◆令和5年度の実施状況 100キロの部が1,109人、50キロの部が463人とコロナ前の参加人数よりも多い結果となった。								
◆自己評価 これまでと同様に補助金交付のほか、机やイス等の物品貸出、ランナー収容の市バスの確保など、大会運営に必要な支援を行った。								
◆今後の方向性 令和6年度から運営体制が大きく変更になるが、これまで同様、担当課が中心となり支援を継続していくほか、連携を深めながら新たな取組についても研究していく。								
◆評価委員の意見 県内外からランナーや関係者が集まり、地域の活性化を図る機会となる大きな行事である。運営体制が変更になっても、主催者と連携を深め、効果的な支援に努められたい。 地域住民による大会運営へのボランティア参加等の支援活動を継承しながら、新たな運営体制と連携し持続可能な地域活性化の推進を図られたい。								

40	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田						スポーツ振興課				
	方針	目標 ② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化									
事業名	北秋田市スキー大会等補助事業					決算額 152 千円					
◆事業の目的 北秋田市スキー大会実行委員会が実施するスキー大会及び県民歩くスキーのつどい開催のため補助金を交付し、事業の円滑な運営と雪国の特性を活かしたスポーツ活動の推進を図る。					◆事業概要 ・第15回北秋田市民スキー大会兼第67回北秋田学童スキー大会 ・第41回県民歩くスキーのつどい						
◆評価指標及び実績					アウトプット						
市民スキー大会 参加者 60人					過去5年の平均値 56人						
					実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
					交付額(円)	1,477,744	中止	866,766	57,215	930,727	中止
					参加者数	77人	0人	46人	0人	45人	0人
県民歩くスキーのつどい 参加者 200人					過去5年の平均値 196.5人						
					実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
					交付額(円)	306,276	中止	中止	中止	279,458	中止
					参加者数	248人	0人	0人	0人	145人	0人
季節・地域特有の自然環境におけるスポーツに取り組むことで、地域への親しみと体力・精神力を育み将来的に競技者への足がかりとしてもらう。評価指標として前年度の参加者を上回る設定とした。											
◆令和5年度の実施状況 暖冬による雪不足により、どちらの大会も開催には至らなかった。											
◆自己評価 大会実施に至らなかったものの、関係団体の代表者で組織した実行委員会では、参加者の増加や競技人口増加に向けた取組など、実行委員と積極的に意見交換を行い、次年度の開催に向け、たいへん意義のある会合となった。											
◆今後の方向性 年々参加者が減少傾向にあることから、競技人口の拡大に向けて、スキーを気軽に行うことができる環境整備を推進していく。											
◆評価委員の意見 雪不足のため大会開催には至らなかったが、実行委員会で話し合われた事柄を次年度に生かし、市民が雪国ならではのスポーツに親しみ、楽しめる大会の開催へとつなげられたい。 地元施設を活用した冬季間のスポーツ活動の推進を図るために、次年度開催に向けた実行委員会による意見交換は意義あることである。対応策を具体化する等して継続開催を図られたい。											

41	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田		スポーツ振興課					
	方針	目標 ③ 競技スポーツの向上						
事業名	北秋田市スポーツ大会開催補助事業			決算額 160 千円				
◆事業の目的 市内で開催するスポーツ大会に要する経費に対して補助することにより、北秋田市におけるスポーツの振興、競技力の向上、地域の活性化を図る。		◆事業概要 市内で開催する大会運営経費の一部補助を行う。 ・小学生を対象とした県北、市内、郡市大会 1日 50,000円 2日以上 70,000円 ・全県規模の大会 1日 80,000円 2日以上 100,000円 ・東北大会以上 1日 100,000円 2日以上 150,000円						
◆評価指標及び実績		アウトプット						
申請件数 6件 競技大会を開催することにより、競技力の向上を図るため、過去5年の平均件数(4件)以上を評価指標とし以下のとおりに設定した。		過去5年の交付件数の平均値 3件						
		実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		交付額(円)	438,000	438,000	80,000	50,000	130,000	160,000
		申請件数	6件	6件	1件	1件	2件	2件
◆令和5年度の実施状況 スポーツ振興や競技力の向上、地域活性のため、市内で開催されるスポーツ大会に要する経費の一部の補助を行った。 第10回北秋田市縄文水泳競技大会 80,000円 第2回北秋田市剣道優勝大会 80,000円								
◆自己評価 今年度も2件の開催にとどまり、これまで以上に周知が必要と考えている。								
◆今後の方向性 競技の普及や競技力の向上だけでなく、地域の活性化につながるような取組に対しては補助を拡大するなど、補助内容について検討していきたい。								
◆評価委員の意見 申請件数の増加のため検討予定の、地域の活性化にもつながる取組例を具体的に明示して、さらなる広報活動に取り組むことも考えられる。 本市の競技スポーツの向上を目指し、各スポーツ協会加盟団体との連携を図るとともに、地域の活性化につながる取組を実施している団体へ補助を拡大することを期待する。								

42	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田						スポーツ振興課	
	方針	目標 ③ 競技スポーツの向上						
事業名	北秋田市スポーツ大会出場費補助事業							決算額 1,612 千円
◆事業の目的 北秋田市在住の小・中学校児童生徒が全県大会規模以上の大会に出場することに要する経費について、市がその一部を補助し、児童生徒のスポーツ振興を図る。			◆事業概要 全県大会規模以上の大会出場する児童・生徒の団体・個人(学校部活動を除く)に対しての交通費・宿泊費・参加費等の経費の一部を補助を行う。					
◆評価指標及び実績		アウトプット						
申請件数 45件		過去5年の交付件数の平均値 23件						
大会出場経費に関する不安要素を軽減することで、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりを行うため、過去5年の最大件数であった平成29年度の43件以上を評価指標とし以下のとおり設定した。		実績	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		交付額(円)	1,295,200	1,248,510	474,760	491,400	1,162,270	1,611,270
		申請件数	34件	34件	8件	14件	24件	29件
◆令和5年度の実施状況 全県大会規模以上の大会出場する児童・生徒の団体・個人（学校部活動を除く）に対しての交通費・宿泊費・参加費にかかる経費の一部を補助を行った。 令和5年度実績 ・全国大会（9件）290,640円 ・東北大会（8件）619,190円 ・全県大会（12件）701,440円 計 1,611,270円								
◆自己評価 選手をはじめ、監督やコーチの大会参加に係る経費の負担軽減を図ることで、各種大会への参加機会を増やす一助となった。								
◆今後の方向性 学校部活動地域移行の動向を踏まえ、補助内容の見直し等を行いながら事業を継続していく。								
◆評価委員の意見 市内の小・中学生がスポーツで活躍し、申請件数が増加している。大会参加に係る経費の補助はスポーツ活動に取り組みやすい環境づくりにつながるので、継続されたい。 児童生徒の全国及び東北大会の件数が増えており、選手をはじめ指導者、家族の日頃の取組や関係団体の支援体制の充実によるものと高く評価できる。今後も本事業を通して、選手及び指導者に対して諸経費等の補助を継続していただきたい。								

令和 5 年度

北秋田市教育委員会点検・評価報告書

発 行	令和 6 年 10 月
発行責任者	北秋田市教育委員会教育総務課
所 在 地	北秋田市花園町 1 5 番 1 号 北秋田市役所第二庁舎
T E L	0 1 8 6 - 6 2 - 6 6 1 6
F A X	0 1 8 6 - 6 3 - 2 6 7 8